

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第 299 集

西近津遺跡群

NISHITIKATU

# 西近津遺跡 X VII

長野県佐久市長土呂西近津遺跡第 17 次発掘調査報告書

2023.2

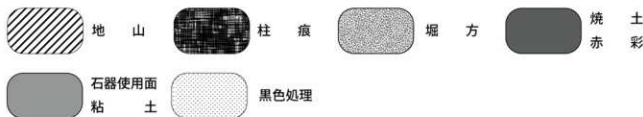
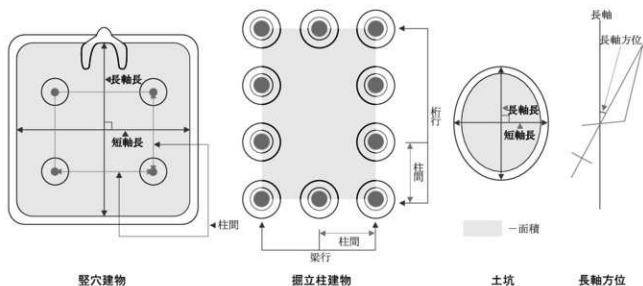
佐久市教育委員会

## 例 言

- 1 本書は長野県佐久市に所在する西近津遺跡群西近津遺跡XⅦの発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 株式会社田が行う宅地造成に伴う記録保存を目的に佐久市教育委員会が実施した。
- 3 遺跡名及び所在地 西近津遺跡XⅦ (NTXⅦ) 佐久市長土呂 1806-1
- 4 調査期間及び面積 発掘作業：令和3年8月17日～令和3年9月15日  
整理作業：令和3年9月16日～令和4年2月17日
- 5 本書に掲載した地図は佐久市発行の都市計画図(1:2,500)、佐久市教育委員会作成の遺跡詳細分布図(1:5,000)である。
- 6 遺構測量はTSを用い3次元データを取得した。取得したデータは株式会社CUBICの「遺構くん」により図化した。図面トレースは「遺構くん」で行い、Adobe Illustratorで調整した。写真はデジタル一眼レフカメラで撮影し、Adobe Photoshopで補正等を行った。編集はAdobe InDesignで行った。
- 7 本書の作成・編集は小林が行った。
- 8 本書及び発掘調査の図面・写真などの記録及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

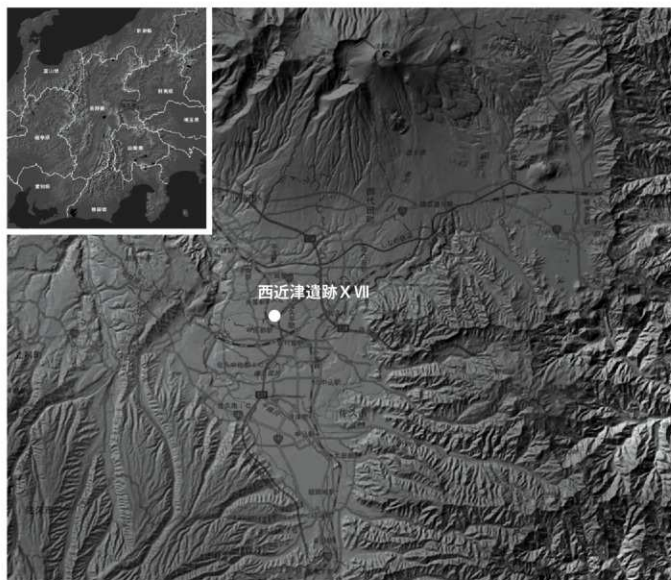
## 凡 例

- 1 遺構の略記号は古代以前の竪穴建物-H、土坑-D、溝渠-M、ピット-Pである。
- 2 挿図の縮尺は遺構1/80、遺物1/4を基本とする。これ以外のものは挿図中のスケールを参照されたい。
- 3 海拔標高は、水系標高をスケールに「標高」と記してある。土層の色調は、1999年版「新版標準土色帖」に基づいた。
- 4 遺物挿図番号・遺物写真番号・遺物観察表番号は一致する。
- 5 遺構の計測値は下図に示した部分の測定値である。面積は床面積、壁残高は最大値である。
- 6 遺構の形態は長軸長と短軸長の差が1割を超えたものを長方形、楕円とした。
- 7 挿図中の網掛けは以下の表現である。



## 目 次

第1章 発掘調査の経緯	1
第1節 発掘調査に至る経緯	1
第2節 調査体制	1
第3節 調査日誌	2
第4節 検出遺構・遺物の概要	2
第2章 遺構と遺物	2
第1節 竪穴建物	2
第2節 掘立柱建物	14
第3節 土坑	19
第4節 溝	22
第5節 ビット	22
第6節 遺構外出土遺物	22
第3章 まとめ	24



第1図 西近津遺跡X VIIの位置

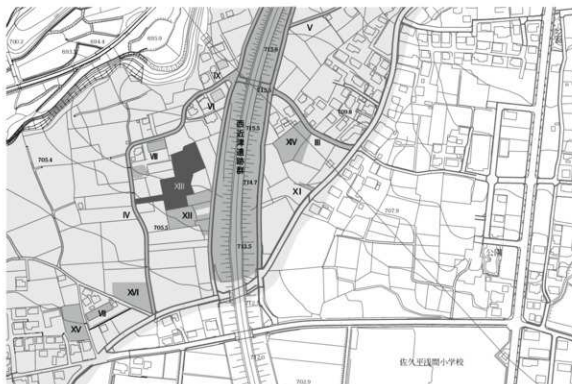
# 第1章 発掘調査の経緯

## 第1節 発掘調査に至る経緯

西近津遺跡XVIIは、北東から南西に延びる田切の縁部分に立地する。田切谷の底からは、小諸市であり、佐久市と小諸市の行政境に位置している。過去の16次にわたる佐久市教育委員会の調査及び、中部横断自動車道建設に伴う長野県埋蔵文化財センターの調査において、縄文時代後期、弥生時代後期、古墳時代後期、奈良・平安時代、中世の大規模な複合遺跡であることが明らかとなっている。今回、同遺跡内において、株式会社田による宅地造成工事が計画されたため、佐久市教育委員会では遺跡の確認調査を実施した。その結果、遺構、遺物が確認されたため保護協議を行い、道路建設部分について記録保存を目的とした発掘調査を行うこととなった。

## 第2節 調査体制

調査受託者	佐久市教育委員会	教育長	棚澤晴樹	吉岡道明 (R3年5月～)
事務局	社会教育部	部長	土屋 孝	
	文化振興課	課長	平林照義 (R3)	中沢栄二 (R4)
		企画幹	谷津和彦 (R3)	井上 剛 (R4)
	文化財調査係	係長	山本秀典 (R3、R4 7月から)	伊澤信子 (R4 6月まで)
		係	富沢一明 上原 学 羽毛田卓也 (R3)	小林眞寿
			久保浩一郎 松下友樹 (R4)	
		調査担当者	小林眞寿	
		調査員	赤羽根篤 岩松茂年 大矢志慕 小林喜久子 小池長信	
			小林敏雄 桐原久人 清水律子 副島充子 田中ひさ子	



第2図 西近津遺跡XVII周辺の過去の調査位置

### 第3節 調査日誌

- 令和3年 7月19日 株式会社田より埋蔵文化財調査費概算見積依頼が提出される。  
 7月23日 株式会社田と佐久市教育委員会が埋蔵文化財発掘調査契約を締結する。  
 8月17日～9月15日  
 記録保存を目的とした、発掘調査を実施する。  
 9月16日 報告書作成業務に着手。  
 令和4年 2月17日 報告書を刊行し、全ての業務を終了する。

### 第4節 検出遺構・遺物の概要

遺構 竪穴建物-12棟 掘立柱建物-5棟 土坑-7基 溝-1条 ビット-81基  
 遺物 縄文土器 弥生土器 土師器 須恵器 石器・石製品

## 第II章 遺構と遺物

### 第1節 竪穴建物

#### H1号竪穴建物（第3図）

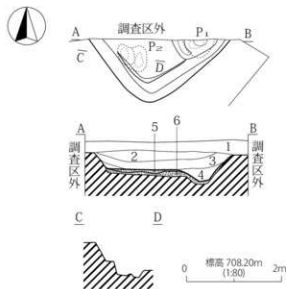
調査区東端で検出された。北、東方向に調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高34cmの規模である。検出された範囲では他遺構との重複関係は認められなかった。南壁に接するようにP1が検出された他は床面上には付随する施設は認められなかったが、堀方調査において重なり合う2基のビットと、旧建物の南西隅が検出されたことから、本址は建替が行われていることが確認された。

遺物は縄文土器や土師器の細片が僅かに出土したが、図示し得るものはなく、本址の時期は不明である。

#### H2号竪穴建物（第4図）

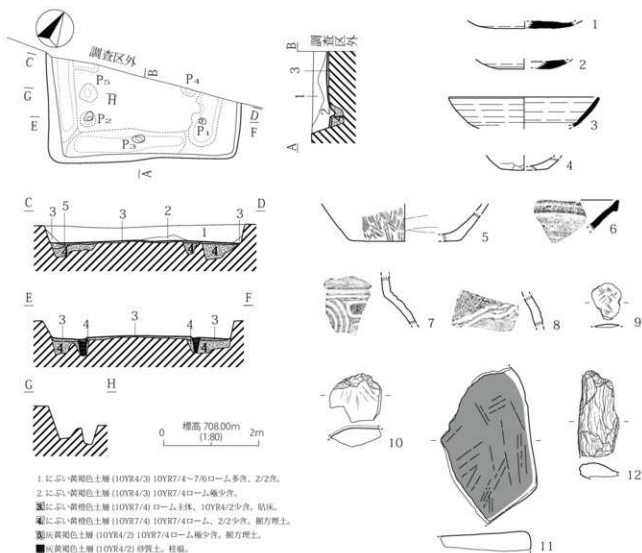
調査区東端からやや西側で検出された。H3号竪穴建物、F6号掘立柱建物を切る。北方向に調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高42cmの規模である。検出範囲にカマド・周溝は存在しないが、床面上で3基、堀方から2基のビットが検出された。これらのビットのうちP1・P2は主柱穴であり、φ16cmの柱痕が確認された。また、P3は出入口施設と思われる。

遺物は須恵器、土師器、縄文土器、石器・石製品が出土している。須恵器には環、有台環、甕の器種が認められる。環のロクロからの切り離しはヘラである。土師器甕は2点出土しているが、4は器壁は厚いものの武蔵養化が顕



1. 灰黄褐色土層 (10YR5/2) 耕作土。
  2. にぶい・黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム、φ5mm以下バミス少含。
  3. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR2/2色、7/4ローム少含、φ2mm以下バミス少含。
  4. にぶい・黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム多含、2/2輪少含。
- 敷におい・黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR2/2色、弱灰。  
 ■ 敷におい・黄褐色土層 (10YR7/4) ローム、10YR2/2輪少含、黒方土。

第3図 H1号竪穴建物



第4図 H2号竪穴建物

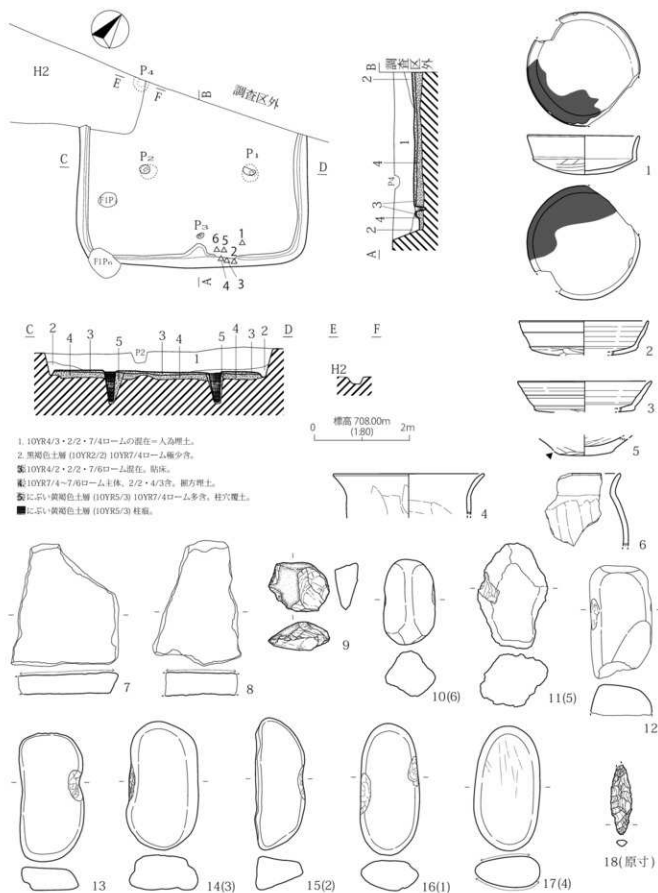
著である。縄文土器2点は混入品で、堀之内1式の鉢片である。石器・石製品は磨石と石棒の器種が認められる。石棒は緑泥片岩製で、明らかに混入品である。

以上の出土遺物の特徴から本址は聖原編年の奈良・平安時代1期に比定され、8世紀第1四半期の実年代が想定される。

### H3号竪穴建物 (第5図)

H2号竪穴建物の東隣に検出された。H2号竪穴建物、F1号掘立柱建物、ビットP2~P4に切られ、H4号竪穴建物、F6号掘立柱建物、D3・4号土坑を切っている。壁残高62cmの規模で、検出範囲にはカマドは存在しない。壁下には周溝が巡り、床面上で3基、堀方から1基のビットが検出された。これらのビットのうちP1・P2は主柱穴であり、φ23cmの柱痕が確認された。また、P3は出入口施設と思われる。

遺物は土師器と石器が出土している。土師器には坏と甕の器種が認められる。1は北武蔵型、2・3は有段口縁坏である。1は内外面に煤が付着しており灯明に使用されたものと思われる。甕は全て破片で、ナデ、ケズリ調整が施されている。石器は砥石、編物石、削器、磨石、石錐の器種が認められる。削器、石錐は縄文時代のものであり混入品である。砥石や磨石については本址に伴うものか否かの判断は出来ないが、編物石は本址に伴うものである。



第5図 H3号竪穴建物

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期に比定され、7世紀の実年代が想定される。

#### H4号竪穴建物（第6図）

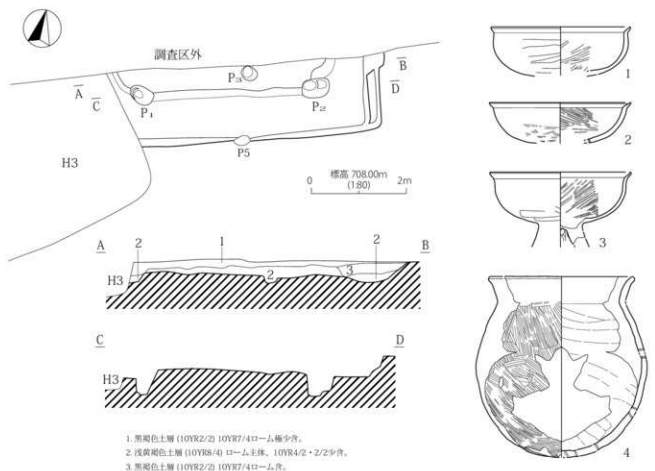
H3号竪穴建物の東隣に検出され、H3号竪穴建物に切られる。壁残高53cmの規模で、検出範囲にはカマドは存在しない。5基のピットが検出された。これらのピットのうちP1・P2は主柱穴である。本址は堀方状態で検出されており、床、周溝等は存在しなかった。

遺物は土師器と縄文土器が出土した。縄文土器は後期堀之内式のもので混入品である。土師器には高環と甕の器種が認められる。高環は口縁端部が短く外反する器形で、内面には暗文状のヘラミガキ調整が施される。甕4は東海系と思われる丸底のもので、外面にはハケメ調整が施されている。甕5は口縁部片で、胴が張る器形を呈するものと思われる。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代中期、5世紀後半の年代が想定される。

#### H5号竪穴建物（第7図）

H3号竪穴建物の南に検出され、H6号竪穴建物を切る。南方方向に調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高63cmの規模である。北辺の中央と思われる部分に所謂「地山削出」のカマドが検出された他は、調査範囲内には周溝、ピットは存在しなかった。



第6図 H4号竪穴建物



遺物は土師器、須恵器、石製品が出土している。土師器は全てで環で、3点出土している。この内2点は北武蔵型であり、残る1点は身が深い半球状のもので、口縁端部が僅かに外反する。内面にはヘラミガキ後黒色処理が施される。須恵器は坏蓋片が1点出土しているが、混入品である。石製品は3点の滑石製の白玉が出土している。3点全てが3の土師器環に内包されていた。穿孔は両面から行われており、穿孔のやり直しの痕跡が6、7に認められる。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期に比定され、7世紀の実年代が想定される。

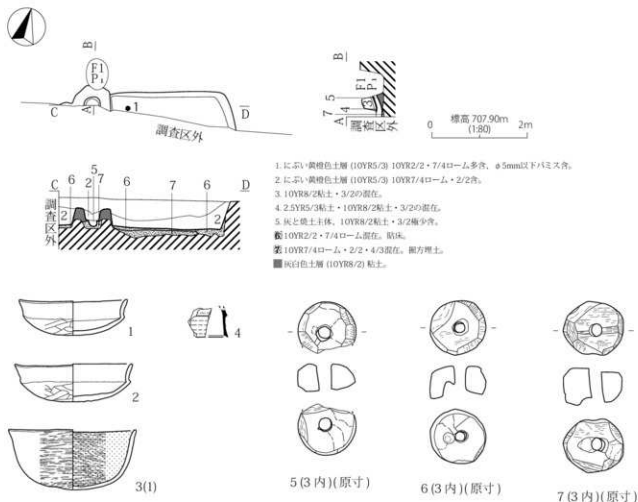
#### H 6号竪穴建物（第8・9図）

H5号竪穴建物の西に検出され、H5号竪穴建物に切られる。南方向に調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高58cmの規模である。北辺の中央部分に石芯を粘土で被覆したカマドが構築されていた。壁下には周溝が巡る。ピットは5基検出されたが支柱穴は認められない。

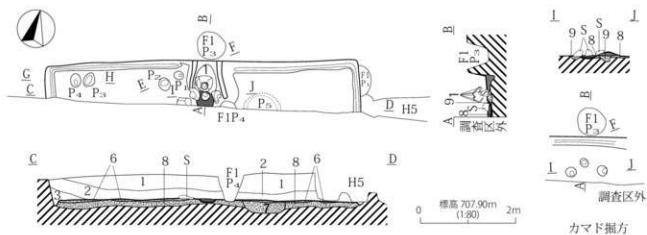
遺物は土師器と石器が出土している。土師器には坏、甕、甔の器種が認められる。坏は半球状を呈し、内面に暗文状のミガキが施される。甕は7の小型甕を除き体部に最大径を有するもので、ナデ調整が施されている。甔は底部が開口する大型のものである。石器は台石、編物石、磨・敲石が出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期に比定され、6世紀前半の実年代が想定される。

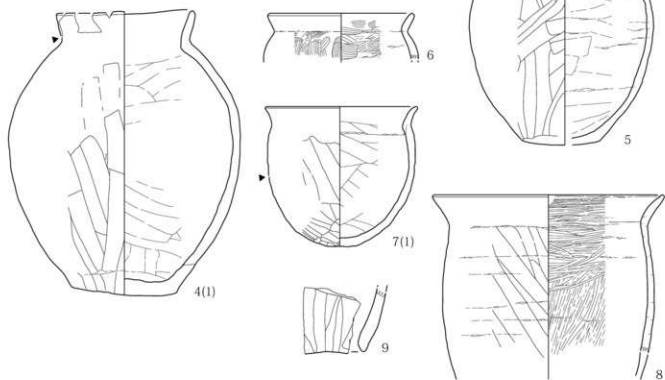
#### H 7号竪穴建物（第10・11図）



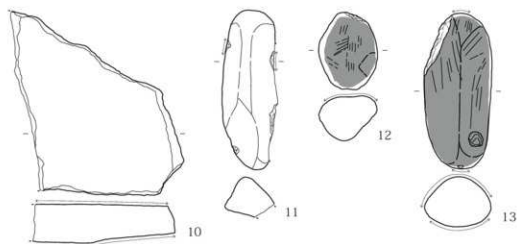
第7図 H 5号竪穴建物



1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム・少含。
2. 比色・黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム・2/2多含。
3. 比黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4極少含。
4. 比色・黄褐色土層 (10YR5/3) 10YR7/4ローム・2/2少含。  
10YR7/4ローム・2/2・4/3混在。
5. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム多含。粘床。
6. 黄褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4極少含。
7. 比色・黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR2/2少含。縦方埋土。
8. 粘土。
9. 黒褐色赤褐色土層 (2.5YR2/2) 粘土。



第8図 H6号竪穴建物(1)



第9図 H6号竪穴建物(2)

調査区中央で検出された。H9号竪穴建物、M1に切られ。D1号土坑を切る。北方向に調査区外に延びるため全容は不明である。南壁中央部分に貯蔵穴が構築された方形の張出部分を有する。壁下には周溝が巡り、東南隅にはP2に向かって伸びる2条の間仕切り溝が存

在した。ピットは6基検出された。P1、P2の2基は主柱穴である。カマドは調査範囲内には存在しなかった。

遺物は土師器、須恵器、縄文土器、石器・石製品が出土している。土師器には坏と甕の器種が認められる。坏1は平坦な底部から口縁部が外反する形態で、内外面ミガキ調整で内面には黒色処理が施される。2は半球状を呈し、口縁部が受口状に開く形態である。内面には暗文状のミガキが施される。甕5、7は混入品である。本址に伴うと思われる6は底部片であるが、胴張の形態を呈するものと思われる。須恵器は坏、甕、甕の器種が認められる。坏と甕9は混入品である。甕は口縁部片であり、櫛歯状工具による刺突列が施されている。10の甕は甕の可能性を有する。縄文土器は全て混入品である。後期堀之内2期を主体とするものである。石器・石製品は、砥石、台石、紡錘車、編物石、磨石、磨・敲石が出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期に比定され、6世紀前葉の実年代が想定される。

#### H8号竪穴建物（第12図）

調査区中央付近で検出された。H9号竪穴建物を切り、H2号竪穴建物に切られる。検出されたのは西南隅の僅かな部分であり、規模的には、壁残高18cmが知れるのみであった。調査範囲内には付属施設は存在しなかった。出土遺物は皆無であり時期は不明である。

#### H9号竪穴建物（第13図）

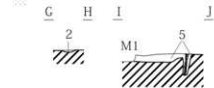
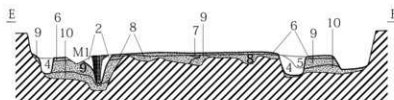
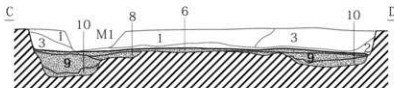
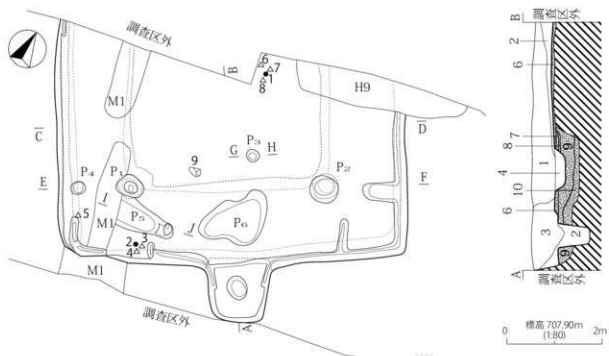
調査区中央付近で検出された。H7号竪穴建物を切り、H8号竪穴建物に切られる。北方向に延びるため全容は不明である。東南、西南の両隅を含む僅かな部分が検出されただけであり、壁残高34cm以外の規模は不明である。調査範囲内には付属施設は存在しなかった。

遺物は縄文土器片1点、編物石3点、磨石1点が出土したが、本址の時期を比定出来るものではない。よって本址の時期は不明である。

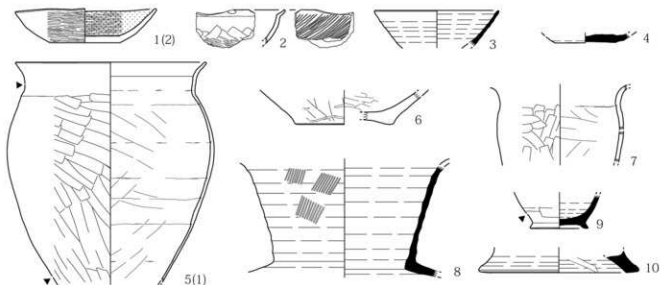
#### H10号竪穴建物（第14図）

調査区西側で検出された。D2号土坑を切る。南方向に調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高78cmの規模である。カマド、周溝は調査範囲内には存在しなかった。ピット1基が検出されたが性格は不明である。

遺物は土師器、須恵器、縄文土器、土製品、石器が出土している。土師器は坏と鉢が各1点認められる。坏は内外面にミガキが施され、底部から稜をなして口縁部が外反する。鉢は深めの半球状を呈し、口縁部が短く強く外反する。須恵器は坏蓋が1点認められる。土製品は縄文土器の破片を利用した土器片円盤が1点認められる。土器片円盤と縄文土器は全てP1から出土していることから、P1は本址に伴うものではなく、本址に先行する



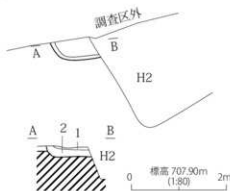
1. 濃い黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム少許。
2. 黒褐色土層 (10YR3/2) 炭化物少許。
3. 10YR4/3・7/6ローム・7/4ローム・2/2層在。
4. 濃い黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム多量。
5. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム・2/2多量。
6. 濃い黄褐色土層 (10YR7/4) 10YR7/6ローム主体、2/2少許、粘床。
7. 明黄褐色土層 (10YR7/6) ローム二次堆積。
8. 10YR7/4ローム・2/2層在。
9. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/6ロームアローム多量。
10. 濃い黄褐色土層 (10YR7/4) ローム二次堆積。
- 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 柱状。



第10図 H7号竪穴建物(1)



第11图 H7号窑穴建物(2)



1. 赤・黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム少量。
2. 赤・黄褐色土層 (10YR3/3) 10YR7/4ローム多。

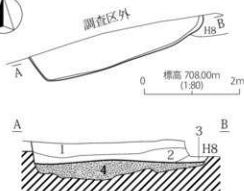
第12図 H 8号竪穴建物

遺物は土師器、須恵器、縄文土器、石器・石製品が出土している。土師器には坏蓋と甕の器種が認められる。土師器の坏蓋は須恵器坏蓋の模倣形態であり、内面はミガキ後黒色処理が施される。市内においてこのような坏蓋は9世紀前半にしか認められないことが近年の資料蓄積から明らかになりつつある。甕は2点図化出来た。2点共に武蔵裏である。須恵器には坏、有台坏、坏蓋の器種が認められる。ロクロからの切離しは回転糸切によるもので、火傷が顕著なものが多い。縄文土器は混入品である。全て後期のものであり、堀之内2から加曾利B1の時期のものである。石器・石製品も縄文時代のものが多く混入していると思われるが、鉄平石や河原石を利用しているため区分が難しい。

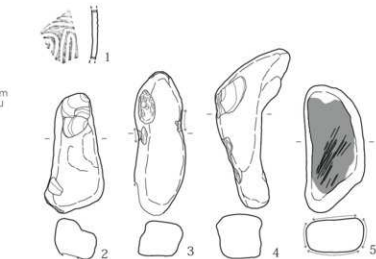
以上の出土遺物の特徴から、本址は聖原編年の奈良・平安時代V期に比定され、9世紀前半の実年代が想定される。

### H 12号竪穴建物 (第17～20図)

調査区北端で検出された。F5に切られ、東・西方向に調査区外に延びるため全容は不明である。N - 17° - Wに長軸方位をとり、長軸長7.12m、単軸長6.49m、壁残高53cm、面積46.21㎡の規模である。北壁中央部分には所謂「地山削出」のカマドが構築されていたが、粘土や石などの構築材は残存していない。均等に配置さ



1. 赤・黄褐色土層 (10YR4/3) 10YR7/4ローム・3/2少量。
  2. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR7/4ローム多。
  3. 赤・黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR4/3少量。
- 10YR5/3・7/4ローム・2/2痕。



第13図 H 9号竪穴建物

縄文時代の所産と思われる。石器は砥石、編物石、磨・敲石、磨石、石皿の器種が認められる。石皿は破片であることから、カマドの構築材として用いられた可能性もあり、混入品とは断定できない。

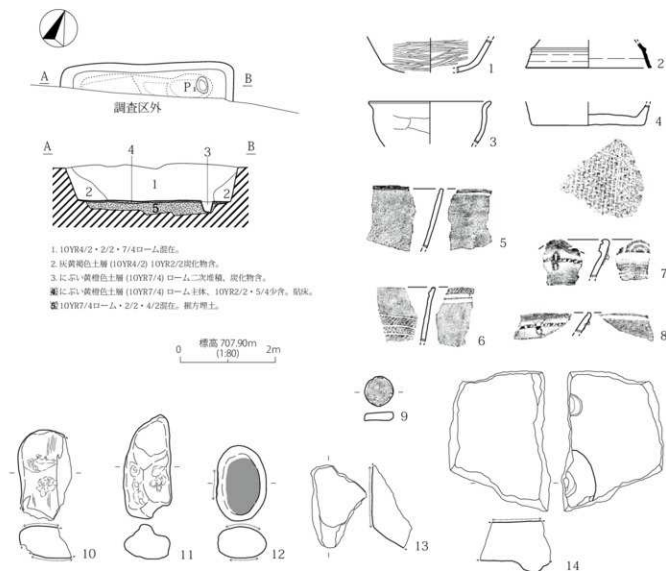
以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期に比定され、6世紀前葉の実年代が想定される。

### H 11号竪穴建物 (第15・16図)

調査区西端で検出された。P62を切り、南方向に調査区外に延びるため全容は不明である。壁残高62cmの規模である。北壁中央部分には石芯を粘土で被覆したカマドが構築されていたが、焚口から天井部は残存していなかった。北東隅の堀方からピットが1基検出されたが本址に先行する時期の所産と考えられる。周溝は存在しなかった。

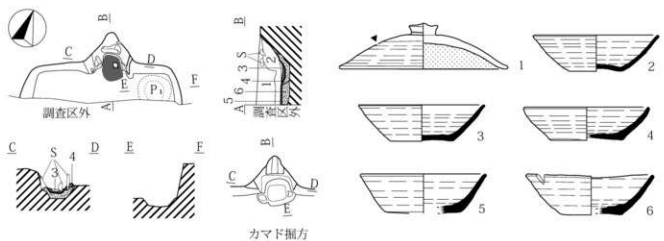
れるP1～P4のピットが支柱穴であり、 $\phi$  31cmの柱痕が確認された。P5・P6・P16は出入口施設と思われる。壁下には周溝が巡り、所謂「間仕切」が連結する。カマド右脇の間仕切の更に右側には貯蔵穴が存在するものと思われるが、調査区外になるため存在は確認できなかった。

遺物は土師器、須恵器、弥生土器、縄文土器、土製品、石器・石製品、木器が出土している。土師器には壺、高環、甕、壺、甕の器種が認められる。壺は全て半球状を呈するものであるが、口縁部が内湾気味に立ち上がるものと、短く屈曲して外反するものがある。内面には暗文状のヘラミガキが施される。高環は脚部のみの破片が1点認められた。短脚である。甕は全てのものが外面ヘラケズリ調整が施される。器形的には胴が球胴のもと長胴のものが認められる。長胴のものは胴下半に最大径を有している。底部が突出する形態である。壺は小型のものが1点出土している。口縁部が大きく外反する。甕は底部全体が開く大型のものである。須恵器には坏蓋と高環の器種が認められる。坏蓋は天井部に稜を持つものと、持たないものが存在する。高環は脚部を欠損する。体部には櫛描波状文が一带巡る。弥生土器は後期の壺や高環の破片が出土している。縄文土器は後期堀之内2式の破片が大半を占めるが、加曾利B式も少量認められる。土製品は土器片円盤や土偶片が出土している。弥生土器、縄文土器、土製品は混入品である。石器・石製品には台石、砥石、打製石斧、打製石鏃、磨石、石製模造品、編物石などの器種が認められるが、大半は混入品であり、本址に伴うものは砥石、編物石、台石・磨石の一部、石製



1. 10YR4/2・2/2・7/4ローム底住。  
 2. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR2/2炭化物含有。  
 3. 濃い黄褐色土層 (10YR7/4) ローム二次堆積。炭化物含有。  
 4. 濃い黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体。10YR2/2・5/4少含有。炭灰。  
 5. 10YR7/4ローム・2/2・4/2底住。黒方理土。

第14図 H10号竪穴建物



1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 10YR2/2・7/4ローム粘土含、粒子粗く重い。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム極少含、床面上面に炭化物の堆積。
3. 灰・炭化物の堆積。

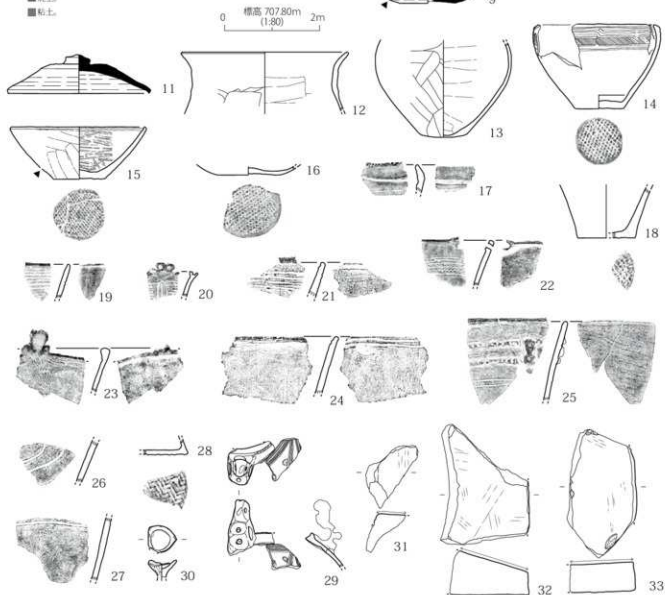
釜にのみ黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体 10YR4/2・2/2含、縦方埋土。

釜にのみ黄褐色土層 (10YR7/4) ローム、2/2少含、詰戻。

竈にのみ黄褐色土層 (10YR7/4) ローム、10YR2/2・4/2含、縦方埋土。

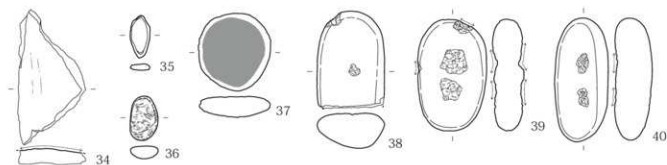
■ 焼土。

■ 粘土。



第15図 H11号竈穴建物(1)





第16図 H11号竪穴建物(2)

模造品などであろう。木器は炭化した椀の高台部分の破片と思われるものが1点出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は古墳時代後期に比定され、6世紀前葉の実年代が想定される。

## 第2節 掘立柱建物

### F1号掘立柱建物（第21図）

調査区東側で、H2～9号竪穴建物に囲まれるような位置で検出された。H3、5、6、P13、18を切り調査区外に延びる。梁間1間×桁行2～3間の側柱の形態である。N-30°-Wに長軸方位を取り、梁間長2.9m、梁間柱間寸法2.9m、桁行柱間寸法1.34m～1.72mの規模で、φ18cmの柱痕が確認された。

遺物は縄文土器と石器が全てP<sub>1</sub>から出土している。縄文土器は後期堀之内2式期のもので1は注口土器の把手、2は深鉢の体部片である。石器は台石、横刃型石器、石皿が出土しているが全て欠損品である。

遺物は混入品と思われるため、本址の時期は不明である。

### F2号掘立柱建物（第22図）

H7とH10号竪穴建物の間で検出された。北方向に調査区外に延びるため全容は不明である。カクランに切られるためP<sub>0</sub>とその北西に近接するピットとの重複関係が不明な他は、他遺構との重複関係は有さない。梁間2間×桁行不明の側柱の形態である。N-15°-Wに長軸方位を取り、梁間長4.12m、梁間柱間寸法2.02m、桁行柱間寸法3.76mの規模で、φ16cmの柱痕が確認された。

遺物は土師器坏片1点と、縄文土器片8点が図示出来た。縄文土器は全て後期堀之内2式期のものである。土師器は内面にミガキ、黒色処理が施される須恵器坏蓋模倣の形態である。

以上の遺物から本址の所産期を比定することは困難であり、不明と言わざるを得ない。

### F3号掘立柱建物（第23図）

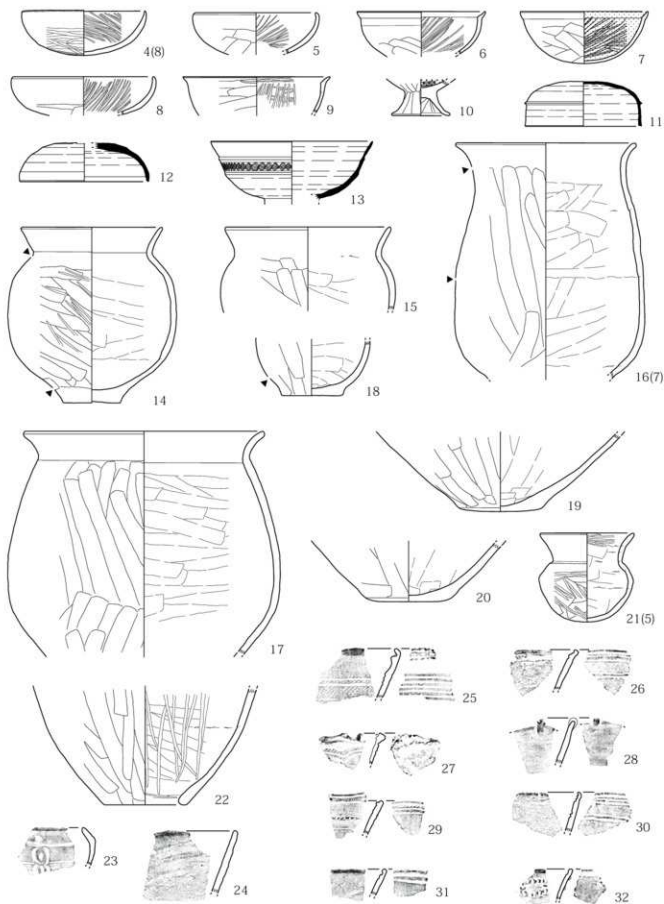
調査区西端で検出された。F4号掘立柱建物、D7号土坑、P84を切り、カクランによる破壊を受ける。梁間1間×桁行2間の側柱の形態である。N-77°-Eに長軸方位を取り、梁間長1.59m、桁行長3.09m、梁間柱間寸法1.59m、桁行柱間寸法1.50m～1.65mの規模である。柱痕は確認できなかった。

出土遺物は皆無であるが、建物を構成する柱穴の形態は中世のものであり、概期の所産と思われる。

### F4号掘立柱建物（第24図）

調査区西端で検出された。F3号掘立柱建物、P34に切られ、D7号土坑、P84を切る。西、南方向に調査区外に延びるため全容は不明である。側柱の形態と思われる。柱痕は確認できなかった。

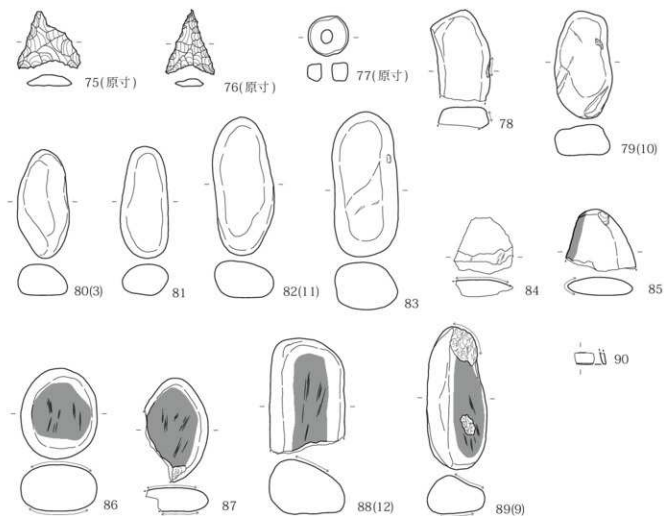




第18图 H12号整穴建物(2)



第19圖 H12号竪穴建物(3)



第20図 H12号竪穴建物(4)

遺物は砥石と磨石が各1点P<sub>1</sub>から出土しているが、これらの遺物から本址の所産期を比定することは困難であり、不明と言わざるを得ない。

#### F 5号掘立柱建物（第25図）

調査区西側で検出された。H12号竪穴建物を切り、D5号土坑、P54に切られる。梁間1間×桁行1間の側柱の形態である。N-20°-Wに長軸方位を取り、梁間長2.28m、桁行長2.50mの規模である。φ16cmの柱痕が確認された。

出土遺物は縄文土器片が4点出土しているが、遺構の重複関係から考えて本址に伴うものではない。よって、本址の所産期は不明である。

#### F 6号掘立柱建物（第26図）

調査区東側で、H2・3号竪穴建物に囲まれるような位置で検出された。H2・3号竪穴建物に切られるため全容は不明である。梁間1間×桁行間不明の側柱の形態と思われる。梁間長3.64m、梁間柱間寸法1.69m～1.95mの規模である。柱痕は確認されなかった。

出土遺物は皆無であり、本址の所産期は不明である。

### 第3節 土坑

#### D1号土坑（第27図）

調査区中央で検出された。H7号竪穴建物、P19・64に切られる。平面楕円形、断面逆梯形の形態で、N-5°-Eに長軸方位を取る。長軸長3.07m、単軸長1.42m、壁残高0.74m、面積1.76㎡の規模である。長軸方向に中心に沿って4基のピットが掘削されていた。

遺物の出土は皆無であったが、形態から縄文時代の陥穴と思われる。

#### D2号土坑（第28図）

調査区西側で検出された。H10号竪穴建物に切られる。平面円形、断面逆梯形の形態で、N-65°-Eに長軸方位を取る。長軸長1.60m、単軸長1.53m、壁残高0.55m、面積1.32㎡の規模である。覆土は人為埋土と思われる堆積状況であった。

遺物は縄文土器、土製品、石器が出土した。縄文土器は後期堀之内2式のもので、器種は深鉢がほとんどを占めている。土製品は網代底の土器片を円形に加工した土器片円盤が1点出土した。石器は磨石と磨・敲石が各1点出土している。

以上の出土遺物から本址は縄文時代後期堀之内2式期の所産と考えられる。

#### D3号土坑（第29図）

調査区東側で検出された。H3号竪穴建物に切られる。平面楕円形、断面逆梯形の形態で、N-16°-Wに長軸方位を取る。単軸長0.83m、壁残高0.36mの規模である。

遺物は砥石が1点出土しているが、本址の所産期を比定しうるものではない。よって本址の時期は不明である。

#### D4号土坑（第30図）

調査区東側で検出された。H3号竪穴建物、P7に切られる。平面長方形、断面逆梯形の形態で、N-79°-Wに長軸方位を取る。長軸長1.71m、単軸長0.90m、壁残高0.20m、面積1.89㎡の規模である。

出土遺物は皆無であり、本址の所産時期は不明である。

#### D5号土坑（第31図）

調査区西側で検出された。F5号掘立柱建物、P63に切られる。平面長方形、断面逆梯形の形態で、N-76°-Wに長軸方位を取る。長軸長1.79m、単軸長1.36m、壁残高0.30m、面積1.65㎡の規模である。

遺物は縄文土器と石器が出土している。縄文土器は後期堀之内2式期の深鉢片が2点認められた。石器は砥石、打製石鏃、磨石が各1点出土したが、本址に伴うものではない。よって本址の時期は不明である。

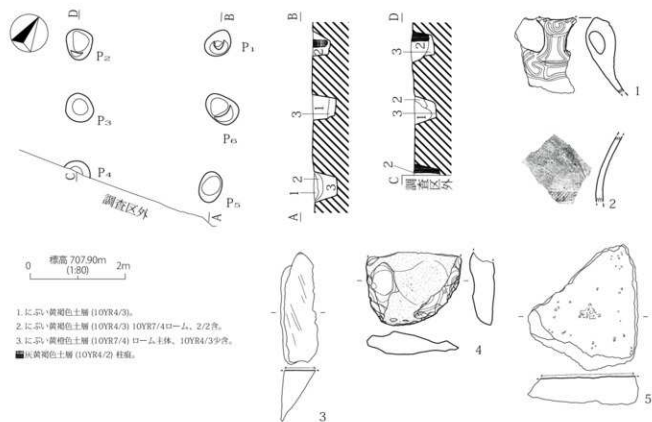
#### D6号土坑（第32図）

調査区西端で検出された。P35に切られる。平面長方形、断面逆梯形の形態で、N-59°-Eに長軸方位を取る。長軸長1.66m、単軸長0.90m、壁残高0.23m、面積1.05㎡の規模である。

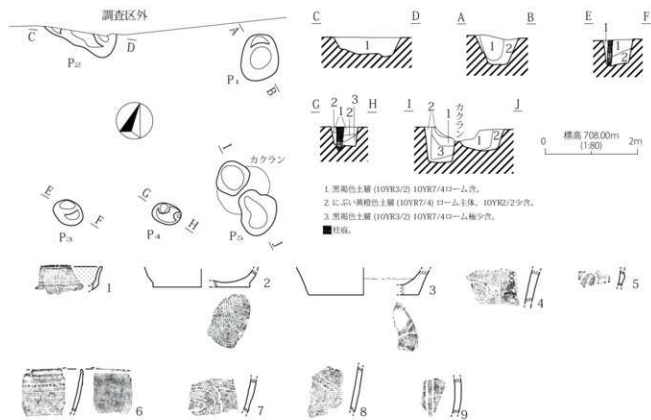
出土遺物は皆無であり、本址の所産時期は不明である。

#### D7号土坑（第33図）

調査区西端で検出された。F4号掘立柱建物に切られる。平面円形、断面逆梯形の形態で、N-49°-Wに長軸方位を取る。長軸長1.19m、単軸長1.16m、壁残高0.35m、面積0.78㎡の規模である。覆土は自然堆積の



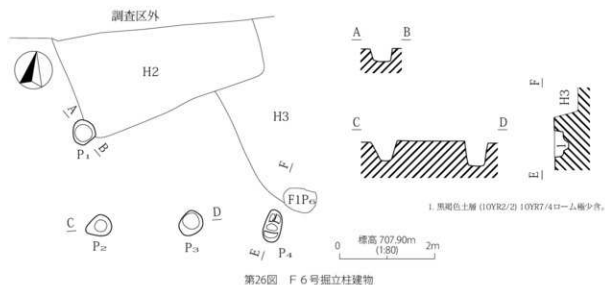
第21図 F1号掘立柱建物



第22図 F2号掘立柱建物







第26図 F 6号掘立柱建物

状況を呈するが、底面から3ヶの礫が検出された。

遺物は縄文土器と石器が出土した。縄文土器は後期堀之内2式期のもので、1点の浅鉢片を除き深鉢片であった。石器は砥石、台石、加工痕のある剥片、石皿片が出土している。

以上の出土遺物から本址は縄文時代後期堀之内2式期の所産と考えられる。

## 第4節 溝

### M 1号溝 (第34図)

調査区中央で検出された。H7号竪穴建物を切る。南北両方向に調査区外に延びるため全容は不明である。検出長5.01m、最大幅1.34m、最大深度0.67mの規模である。

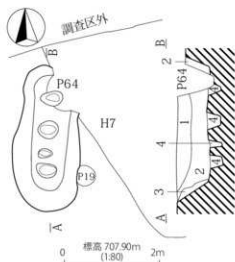
出土遺物は皆無であり、本址の時期は不明である。

## 第5節 ピット (第35～40図)

調査区西側に集中する傾向が認められる。时期的には縄文時代から中世まで及ぶものと思われる。畑の耕作により、削平され消失したのも存在するものと思われる。遺物が出土したものは極めて少なく、また図化出来た遺物も極めて少ない。性格的には柱あるいはそれに類するものを機能させるために掘削されたものであろう。詳細については表を参照されたい。

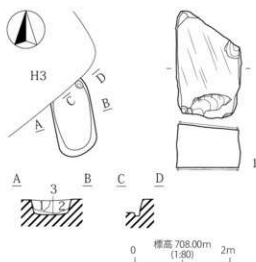
## 第6節 遺構外出土遺物 (第41図)

縄文土器と石器を掲載したが、弥生時代後期の土器片も認められた。鉄平石の破片も少なからず散布しており縄文時代後期の遺構群が古代の集落により破壊されたものと解釈される。縄文土器は堀之内2式の新しい段階のものが主体であり、石神類型も散見される。加曾利B1式も少数認められ、1の浅鉢と20の磨製石斧は遺構検出面上に遺構に伴わず出土した。かつて、ホップの栽培が試みられ、桑を伐根し若干の整地が行われたようであり、この時のものと思われる重機の爪痕と溝状のカクランが認められた。



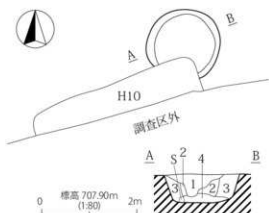
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/6ローム層少含。
2. 10YR2/2・7/4ローム層在。
3. 明黄褐色土層 (10YR7/6) ローム二次堆積。
4. 灰黄褐色土層 (10YR7/4) ローム二次堆積。

第27図 D1号土坑

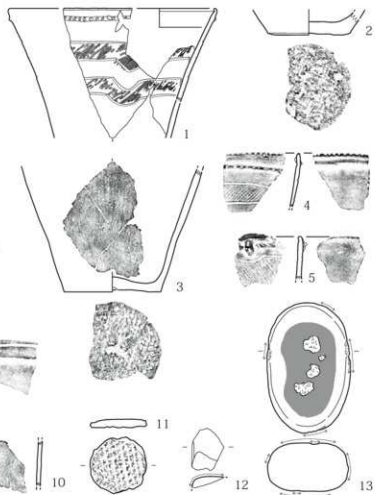


1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム少含。
2. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム多含。
3. 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム二次堆積。

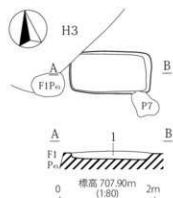
第29図 D3号土坑



1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム層少含。φ1cm以下P&S又少含。
2. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム含。
3. 灰黄褐色土層 (10YR7/4) ローム主体、10YR4/2少含。
4. 黒褐色土層 (10YR2/2)。

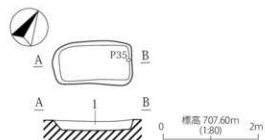


第28図 D2号土坑



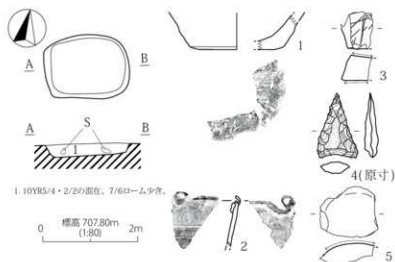
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 10YR7/4ローム少含。

第30図 D4号土坑

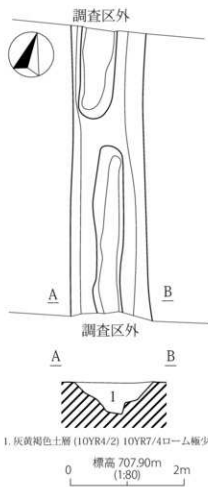


1. に近い黄褐色土層 (10YR5/4) 10YR7/4・7/6ローム多含、2/2極少含。

第32図 D6号土坑



第31図 D5号土坑



1. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 10YR7/4ローム極少含。

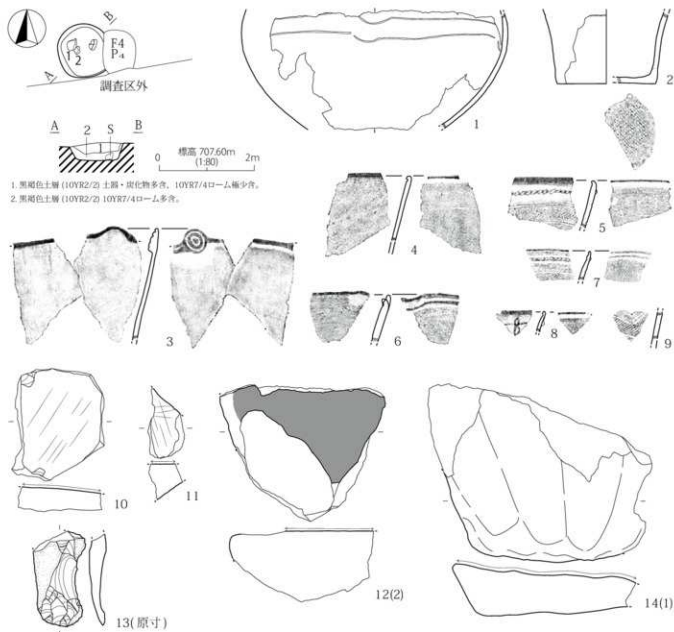
第34図 M1号溝

## 第III章 まとめ

出土した縄文時代後期の土器群は、期的には堀之内2式が大半を占めており、出土場所は縄文時代の遺構に伴うものは少なく、ほとんどは古代の竪穴建物覆土から出土している。縄文時代の遺構に伴うものは、土坑D2、D7出土の土器群に限られる。これらの土器群には外面口縁部の文様帯を消失し、内面に横位凹線を巡らすものが含まれる一方、口縁部に鎖状隆帯と8の字貼付文が施されるものが共存する。口縁形態は前者は波状が多く、後者は平縁が多い。前者の体部文様は残存部分には認められず、無文の可能性も高いが、所謂「粗製土器」ではない。後者の体部文様は縄文充填の横位帯状文がほとんどであるが、第33図-1のような沈線のみで描出されたものも存在する。期的には堀之内2式の新しい部分に位置付くものと思われる。また、遺構外出土の第41図-1やH11号竪穴建物覆土出土の14図-14・15浅鉢などのように加曾利B1式の古い段階のものと思われるものも認められるが、この時期のものは数量的には少ない。

今回検出された縄文時代後期の土器群は、長野県東部地域の千曲川流域における、堀之内2式から加曾利B1式の変遷を考察する上で貴重な資料のひとつであるものと思われる。

今回の調査区域の主体となる古墳時代後期の集落は6世紀前葉を主体とする時期のものである。この時期は、弥生時代中期後半から後期にかけての集落の膨張が、古墳時代前期に極端に衰退した後、再び増加が顕著となる時期であり、その要因の見極めが重要な時期であろう。検出された竪穴建物の規模は大きく、遺構の残存状態も良いが、遺物の残存量が少



第33図 D7号土坑

ないことが影響し、集落の性格は判然としない。

中世と思われる遺構（土坑やピットなど）も少なからず認められるが、当遺跡に限らず遺物の出土量が少ない時期であり、時期的な位置付けが難しい。

参考文献

2008年 総覧縄文土器

小林達雄

関アム・プロモーション

2012年 縄文後期土器研究の現状と課題

縄文セミナーの会

2018年 地域考古学3号 縄文後期前半における土器形式の存立構造

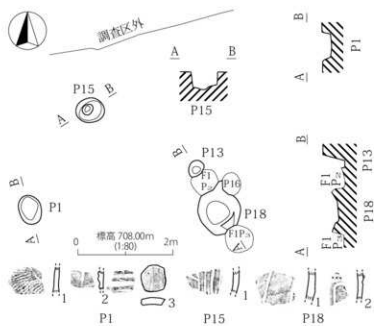
鈴木徳男

地域考古学研究会

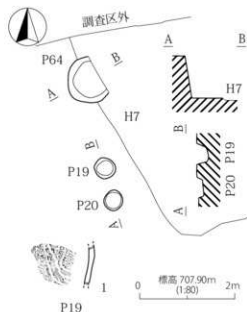
2021年 千曲川—信濃川流域の先史文化、堀之内式並行期の文化様相

綿田弘実

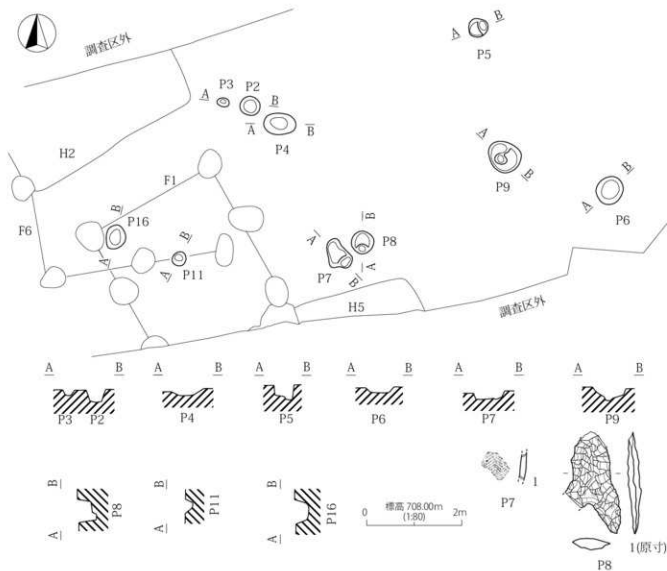
津南町教育委員会



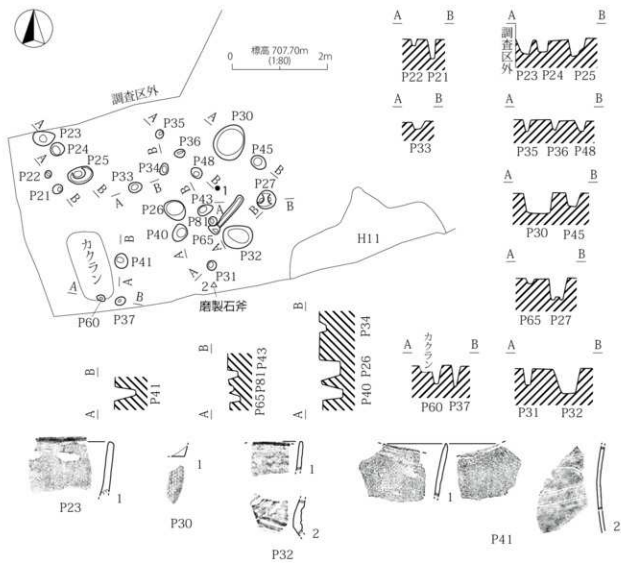
第35図 P1・13・15・18号ビット



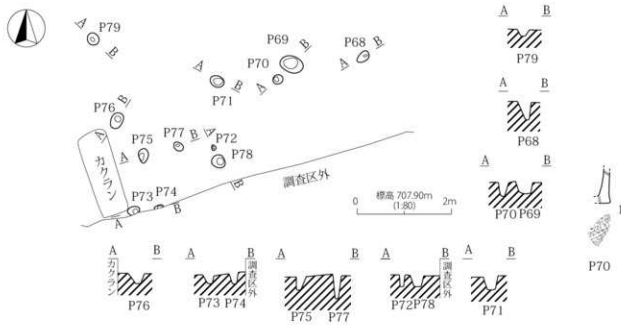
第36図 P19・20・64号ビット



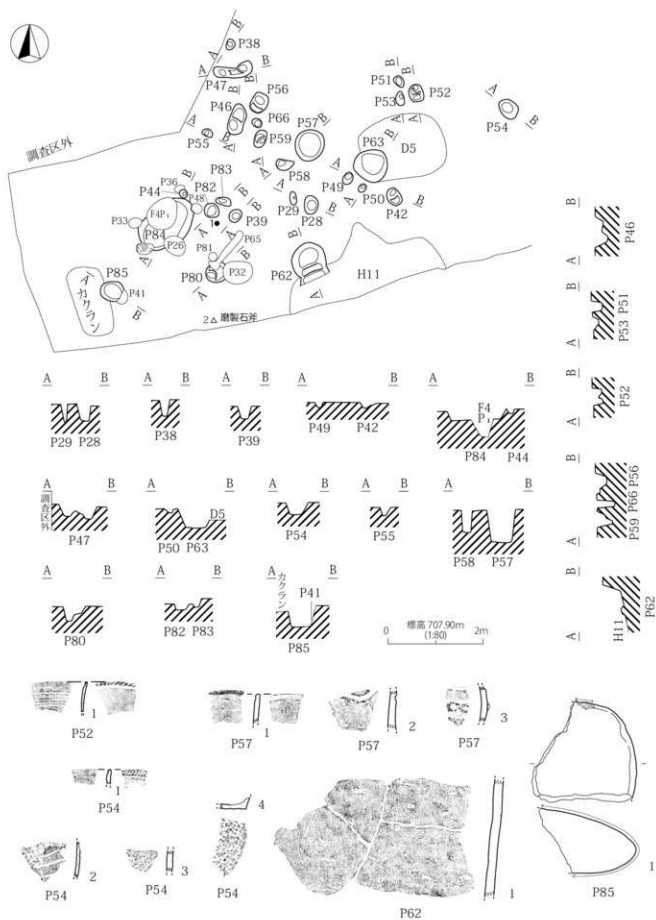
第37図 P2・3~9・11・16号ビット

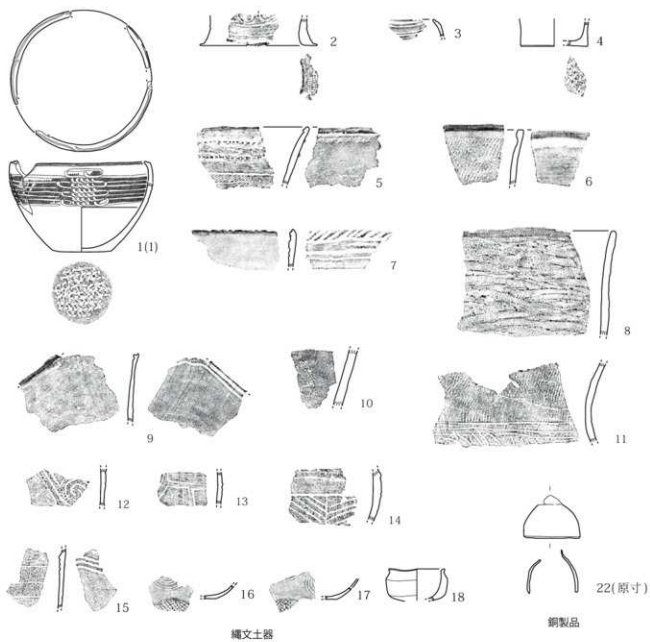


第38図 P21~27・30~37・40・41・43・45・48・60・65・81号ビット

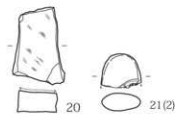


第39図 P68~79号ビット





弥生土器



石器・石製品

第41回 遺構外出土遺物



壁穴建築物計測表

遺構名	規模		主柱		ピット数	カマド 位置 構造方法	周溝	付属施設	地方	重複関係	時期
	長軸方位	長軸長	短軸長	壁残高							
H1	—	—	—	0.34	1	—	—	—	P-1	溝敷区外に延びる	—
H2	—	—	—	0.42	3	2.40	—	—	P-2	H3を切りH6を切り溝敷区外に延びる	—
H3	—	—	—	0.62	3	2.24	—	有 出入口	P-1	H2, F1, F2, 3, 4を切りH4, F6, D3, 4を切り溝敷区外に延びる	—
H4	—	—	—	0.53	2	3.74	—	—	—	H3, F5を切り溝敷区外に延びる	—
H5	—	—	—	0.63	—	—	—	北 地山削出	—	F1を切りH6を切り溝敷区外に延びる	—
H6	—	—	—	0.58	—	—	—	北 石芯粘土	P-1	H5, F1を切り溝敷区外に延びる	—
H7	—	—	—	1.07	2	4.16	—	有 張り出し	—	H9, M1を切りD1, P64を切り溝敷区外に延びる	—
H8	—	—	—	0.18	—	—	—	—	—	H2を切りH8を切り溝敷区外に延びる	—
H9	—	—	—	0.34	—	—	—	—	—	H8を切り溝敷区外に延びる	—
H10	—	—	—	0.78	1	—	—	—	—	D2を切り溝敷区外に延びる	—
H11	—	—	—	0.62	—	—	—	北 石芯粘土	P-1	H9を切り溝敷区外に延びる	—
H12	N-17°-W	7.12 (6.49)	0.53	0.31	4	3.22 ~ 3.40	—	有 出入口	P-4	F5, カクランに切り溝敷区外に延びる	—

掘立柱建物計測表

遺構名	長軸方位	長軸長	短軸長	面積	柱径	柱間寸法	深埋柱間寸法	重複関係			時期
								2.9(H3, 5, 6, P13, 18を切り溝敷区外に延びる)	2.02(カクランに切り溝敷区外に延びる)	1.59(F4, D7, P84を切りカクランに切り入れる)	
F1	(N-30°-W)	—	2.90	—	0.18 (1.34 ~ 1.72)	—	—	—	—	—	—
F2	(N-15°-W)	—	4.12	—	0.16 (3.76)	—	—	—	—	—	—
F3	N-77°-E	3.09	1.59	4.91	—	1.50 ~ 1.65	—	—	—	—	—
F4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
F5	N-20°-W	2.50	2.28	5.7	0.16	2.47 ~ 2.58	2.33 ~ 2.43	D5, P54に切り入れ, H12を切る	—	—	—
F6	—	—	—	—	—	—	1.69 ~ 1.95	H2, 3に切り入れる	—	—	—

土記計測表

遺構名	平面形態	長軸方位	長軸長	短軸長	長軸長	短軸長	壁残高	面積 <sup>m<sup>2</sup></sup>	重複関係			備考	時期
									(1.76)H7, P19, 64に切り入れる	(1.31)H10に切り入れる	H3に切り入れる		
D1	楕円形	N-5°-E	—	3.07	1.42	0.74	—	—	—	—	—	—	—
D2	円形	N-65°-E	—	1.6	1.53	0.55	—	—	—	—	—	—	—
D3	(楕円形)	(N-16°-W)	—	0.83	0.36	—	—	—	—	—	—	—	—
D4	長方形	N-79°-W	1.71	0.9	0.2	—	—	—	—	—	—	—	—
D5	長方形	N-76°-E	1.79	1.36	1.65	—	—	—	—	—	—	—	—
D6	長方形	N-59°-E	1.66	0.9	0.23	—	—	—	—	—	—	—	—
D7	円形	N-49°-W	1.19	1.16	0.35	—	—	—	—	—	—	—	—

ピット計測表(1)

遺構名	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高	重複関係			備考
					10YR4/3 7/4 ローム層少含	10YR4/3 2/2-7/4 ローム少含	10YR4/3 2/2-7/4 ローム少含	
P1	楕円形	0.63	0.47	0.20	H7を切る	—	—	—
P2	円形	0.43	0.41	0.27	H3を切る	—	—	—
P3	楕円形	0.26	0.19	0.12	H3を切る	—	—	—
P4	楕円形	0.68	0.45	0.15	H3を切る	—	—	—
P5	円形	0.43	0.40	0.32	—	—	—	—
P6	楕円形	0.61	0.55	0.10	—	—	—	—
P7	不定形	0.69	0.48	0.17	D4を切る	—	—	—
P8	円形	0.68	0.48	0.40	—	—	—	—
P9	楕円形	0.72	0.63	0.28	—	—	—	—
P11	円形	0.31	0.28	0.17	—	—	—	—

ビット計測表(2)

遺構名	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高	重複関係	備考
P13	楕円形	0.39	0.29	0.48	F1P2に切られる	10YR3/2 7/4 ローム層少含。
P15	楕円形	0.61	0.52	0.38		1-10YR2/2 7/4 ローム層少含。 2-10YR2/2 柱眼φ16cm。
P16	楕円形	0.52	0.42	0.31	P18を切る	10YR2/2 7/4 ローム少含。
P18	(楕円形)	1.16	0.90	0.39	F1P2, F1P3, P16に切られる	1-10YR2/2 7/4 ローム少含。 2-10YR7/4 ローム二次堆積。
P19	円形	0.46	0.44	0.27	D1を切る	10YR2/2 7/4 ローム少含。
P20	円形	0.44	0.40	0.14		10YR3/2 7/4 ローム少含。
P21	楕円形	0.22	0.19	0.41		10YR2/2 7/6 ロームブロック含。
P22	楕円形	0.16	0.14	0.14		10YR2/2 7/4 ローム少含。
P23	楕円形	0.47	0.31	0.35		10YR5/4 2/2-7/4 ローム粒少含。(縄文刀)
P24	円形	0.30	0.27	0.23		10YR2/2 7/4 ローム少含。
P25	楕円形	0.53	0.35	0.36		10YR7/6 ローム主体、土層に2/2。
P26	楕円形	0.49	0.39	0.48	P84を切る	10YR5/4 2/2-7/4 ローム含。(縄文刀)
P27	円形	0.41	0.38	0.49		10YR5/4 2/2-7/4 ローム含。(縄文刀)
P28	楕円形	0.39	0.29	0.40		10YR5/4 2/2-7/4 ローム含。(縄文刀)
P29	楕円形	0.28	0.14	0.38		10YR5/4 2/2-7/4 ローム含。(縄文刀)
P30	楕円形	0.77	0.64	0.44		10YR5/4 2/2-7/4 ローム含。(縄文刀)
P31	円形	0.20	0.20	0.35		10YR2/2 7/4 ローム含。
P32	楕円形	0.63	0.50	0.54	P80を切る	10YR2/2 7/4 ローム含。
P33	楕円形	0.28	0.22	0.17	P84を切る	10YR2/2 7/4 ローム含。
P34	楕円形	0.25	0.17	0.14	F4P1を切る	10YR2/2 7/4 ローム含。
P35	楕円形	0.19	0.16	0.25	D6を切る	10YR2/2 7/4 ローム少含。
P36	楕円形	0.23	0.17	0.22	P44を切る	10YR5/4 2/2-7/4 ローム含。
P37	楕円形	0.23	0.17	0.44		10YR2/2 7/4 ローム少含。
P38	楕円形	0.23	0.18	0.34		10YR5/4 2/2-7/4 ローム含。
P39	楕円形	0.30	0.24	0.26		10YR5/4 2/2-7/4 ローム含。
P40	楕円形	0.37	0.30	0.45		10YR5/4 2/2-7/4 ローム含。
P41	楕円形	0.32	0.28	0.46	P85を切る	10YR2/2 7/4 ローム層少含。
P42	楕円形	0.39	0.29	0.11		10YR5/4 7/4 ローム含。
P43	楕円形	0.34	0.20	0.22		10YR5/4 7/4 ローム多含。
P44	楕円形	0.18	0.16	0.10	P36に切られる	10YR5/4 7/4 ローム多含。
P45	楕円形	0.33	0.27	0.29		10YR5/4 7/4 ローム多含。
P46	楕円形	0.66	0.33	0.29		10YR5/4 7/4 ローム多含。
P47	不定形	0.83	0.30	0.32		10YR5/4 7/4 ローム多含。
P48	楕円形	0.26	0.21	0.23	P84を切る	10YR2/2 7/4 ローム含。
P49	楕円形	0.27	0.20	0.10		10YR2/2 7/4 ローム含。
P50	楕円形	0.20	0.15	0.09		10YR2/2 7/4 ローム含。
P51	楕円形	0.26	0.18	0.25		10YR5/4 7/4 ローム・2/2 少含。
P52	楕円形	0.38	0.31	0.25		10YR5/4 7/4 ローム・2/2 少含。
P53	楕円形	0.30	0.18	0.12		10YR5/4 7/4 ローム含。
P54	楕円形	0.45	0.35	0.29	P5P3を切る	1-10YR2/2 7/4 ローム少含。 2-10YR7/4 ローム主体、2/2 少含。
P55	楕円形	0.23	0.16	0.18		10YR2/2 7/4 ローム少含。
P56	楕円形	0.42	0.34	0.25		10YR5/4 7/4 ローム含。
P57	円形	0.68	0.62	0.70		10YR5/4 2/2-7/4 ローム多含。
P58	楕円形	0.38	0.24	0.47		10YR5/4 7/4 ローム多含。
P59	楕円形	0.39	0.25	0.33		10YR5/4 7/4 ローム少含。
P60	楕円形	0.18	0.12	0.33	カクランに切られる	10YR2/2 7/4 ローム層少含。
P62	-	-	-	0.55	H11に切られる	10YR2/2 7/4 ローム少含。
P63	円形	0.72	0.70	0.45	D5に切られる	10YR5/4 7/4 ローム・2/2 少含。
P64	-	-	-	0.94	H7に切られる D1を切る	-
P65	不定形	0.99	0.25	0.27	P80を切る	-
P66	楕円形	0.23	0.18	0.40		10YR5/4 7/4 ローム少含。
P68	楕円形	0.30	0.19	0.40		10YR2/2 7/4 ローム含。
P69	楕円形	0.50	0.35	0.30		10YR5/4 7/4 ローム多含。 2/2 層少含。
P70	楕円形	0.22	0.20	0.29		10YR5/4 7/4 ローム多含。 2/2 層少含。
P71	楕円形	0.31	0.24	0.31		10YR5/4 7/4 ローム多含。 2/2 層少含。
P72	楕円形	0.12	0.09	0.25		10YR2/2 7/4 ローム少含。
P73	-	-	-	0.18	調査区外に延びる	10YR2/2 7/4 ローム少含。
P74	-	-	-	0.25	調査区外に延びる	10YR2/2 7/4 ローム少含。
P75	楕円形	0.31	0.22	0.27		10YR5/4 7/4 ローム・2/2 少含。
P76	楕円形	0.35	0.25	0.23		10YR5/4 7/4 ローム・2/2 少含。
P77	楕円形	0.23	0.17	0.53		10YR5/4 7/4 ローム・2/2 少含。
P78	楕円形	0.30	0.27	0.24		10YR5/4 7/4 ローム・2/2 少含。
P79	楕円形	0.27	0.24	0.14		10YR5/4 7/4 ローム・2/2 少含。
P80	(円形)	0.46	0.43	0.35	P32, 65に切られる	10YR5/4 7/4 ローム・4/2 少含。
P81	円形	0.19	0.18	0.07		10YR2/2 7/4 ローム少含。
P82	円形	0.34	0.31	0.20		10YR5/4 7/4 ローム多含。
P83	楕円形	0.33	0.17	0.17		10YR5/4 7/4 ローム・2/2 少含。
P84	楕円形	1.32	-	0.23	F3P2, F4P1, P26, 33, 48に切られる	10YR5/4 7/4 ローム・2/2 少含。
P85	-	-	-	0.44	P41, カクランに切られる	10YR5/4 7/4 ローム・2/2 少含。

H2号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法	量	内面	成	調整	外面	備考	出土層位
			口径(長)底径(短)	高さ(厚)	重量等					
1	須臾器	環	—	(6.0)	<0.8>	—	ロクロナナ	へら切り	回転式測	E
2	須臾器	環	—	(7.0)	<1.0>	—	ロクロナナ	回転へらケズリ	回転式測	W
3	須臾器	有台付	16.0	—	<3.1>	—	ロクロナナ	底部、周縁ケズリ	回転式測	W
4	土師器	武草葉	—	(5.0)	<1.3>	—	ナデ	ケズリ	回転式測	E
5	土師器	葉	—	(11.6)	<4.0>	—	ナデ	ミガキ	回転式測	W
6	須臾器	葉	—	—	—	—	—	—	破片実測・互本	W
7	陶文土器	鉢	—	—	—	—	後別圖之内1式、沈線、陶文(LR)	—	破片実測・互本	E
8	陶文土器	鉢	—	—	—	—	後別圖之内1式、沈線、陶文(LR)	—	破片実測・互本	W
9	右器	磨石	<3.9>	<3.1>	<0.4>	<5.8>	磨面1、全周欠損	—	完全実測	E
10	右器	磨石	<5.2>	<5.5>	<2.4>	<65.3>	磨面1	—	完全実測	E
11	右器	磨石	<16.6>	<10.3>	<2.1>	<517.0>	磨面1	—	完全実測	E
12	石製品	石棒	<9.2>	<4.3>	<1.6>	<93.8>	摩尼片岩	—	完全実測	W

H3号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法	量	内面	成	調整	外面	備考	出土層位
			口径(長)底径(短)	高さ(厚)	重量等					
1	土師器	北武草型環	12.1	11.0	4.2	—	煤付着、灯明社に使用か?	煤付着、ケズリ	完全実測	Ⅲ、Ⅳ区
2	土師器	有段口縁環	(13.6)	(11.4)	<3.6>	—	ナデ	ケズリ	回転式測	I区
3	土師器	有段口縁環	(14.2)	(10.6)	<3.2>	—	ナデ	ケズリ	回転式測	N区
4	土師器	葉	(16.0)	—	<4.3>	—	ナデ	ナデ	回転式測	I区
5	土師器	葉	—	5.8	<2.0>	—	ナデ	ケズリ	完全実測	I区
6	土師器	葉	—	—	—	—	ナデ	ナデ	破片実測	N区
7	右器	威石	<13.0>	<11.3>	<2.6>	<576.0>	威面1	—	完全実測	N区
8	右器	威石	<13.4>	<9.4>	<2.7>	<498.0>	威面1	—	完全実測	覆土
9	右器	削器	5.2	6.4	3.0	102.8	—	—	完全実測	Ⅱ区
10	右器	編物石	9.1	5.5	4.9	291.0	—	—	完全実測	No6
11	右器	編物石	11.2	7.4	5.6	308.0	—	—	完全実測	No5
12	右器	編物石	<12.0>	<6.5>	<3.5>	<456.5>	全周欠損	—	完全実測	Ⅲ区
13	右器	編物石	13.6	6.9	2.4	396.0	—	—	完全実測	Ⅲ区
14	右器	編物石	13.7	7.6	3.7	606.0	—	—	完全実測	No3
15	右器	編物石	14.0	5.4	3.7	358.5	—	—	完全実測	No2
16	右器	編物石	14.0	6.3	3.4	416.5	—	—	完全実測	No1
17	右器	磨石	13.3	7.0	3.3	439.0	磨面2	—	完全実測	No4
18	右器	石鏝	<3.7>	1.1	0.7	<3.1>	上部欠損	—	完全実測	Ⅲ区

H4号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法	量	内面	成	調整	外面	備考	出土層位
			口径(長)底径(短)	高さ(厚)	重量等					
1	土師器	高杯	(14.8)	—	<5.1>	—	陶文状ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転式測	覆土
2	土師器	高杯	(15.0)	—	<4.3>	—	陶文状ミガキ	ミガキ	回転式測	覆土
3	土師器	高杯	(15.0)	—	<7.7>	—	陶文状ミガキ	ケズリ	回転式測	覆土
4	土師器	葉(北海系)	(22.4)	—	<19.2>	—	ナデ	ハナ目	回転式測	覆土
5	土師器	葉	(22.2)	—	<4.7>	—	ナデ	ナデ	回転式測	覆土

H4号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法		量		内面	外形・調整	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	重量等				
6	陶文土器	鉢	—	—	—	—	円孔、花隈	—	破片実測、拓本	覆土
7	陶文土器	鉢	—	—	—	—	縁の隆帯	—	破片実測、拓本	覆土
8	陶文土器	鉢	—	—	—	—	弧状の条線	—	破片実測、拓本	覆土
9	陶文土器	鉢	—	—	—	—	頸状隆帯	—	破片実測、拓本	覆土

H5号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量		内面	外形・調整	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	重量等				
1	土師器	北武蔵型杯	11.5	10.7	3.8	—	ナデ	ケズリ	完全実測	覆土
2	土師器	北武蔵型杯	12.4	11.6	4.0	—	ナデ	ケズリ	完全実測	覆土
3	土師器	杯	13.6	—	6.4	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	完全実測	No1
4	須恵器	杯蓋	—	—	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測	覆土
6	石製品	白玉	<1>	<1.5>	<0.7>	<2.1>	一部欠損、穿孔1	—	完全実測	No1内
7	石製品	白玉	1.4	1.5	0.9	2.8	穿孔1、未穿孔1	—	完全実測	No1内
8	石製品	白玉	1.4	1.5	1.0	3.7	穿孔1、未穿孔1	—	完全実測	No1内

H6号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量		内面	外形・調整	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	重量等				
1	土師器	杯	13.0	—	<5.3>	—	胸文状ミガキ	ケズリ→ミガキ	回転実測	覆土
2	土師器	甕	13.6	—	<10.5>	—	ケズリ、ナデ	ケズリ→ナデ	回転実測	P4
3	土師器	甕	14.4	—	<8.3>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	覆土
4	土師器	甕	14.6	11.0	30.3	—	ナデ	ケズリ→ナデ	完全実測	カマド No1
5	土師器	甕	14.8	(8.2)	24.2	—	ナデ	ケズリ	回転実測	覆土
6	土師器	小半甕	15.6	—	<4.8>	—	ハケナデ	ハケナデ	回転実測	覆土
7	土師器	甕	16.2	—	14.8	—	ハケナデ	ケズリ	回転実測	カマド No1
8	土師器	甕	24.0	—	<19.6>	—	ミガキ	ケズリ	回転実測	覆土
9	土師器	甕	—	—	—	—	ケズリ、ナデ	ケズリ	回転実測	覆土
10	石器	台石	<19.5>	<18.4>	<4.1>	<2043.0>	使用面2、上部発熱により黒く焦けている	—	完全実測	覆土
11	石器	編物石	16.9	<5.9>	5.1	<507.0>	—	—	完全実測	覆土
12	石器	磨・敲石	8.2	6.2	4.9	196.6	磨面1、上部に敲打痕	—	完全実測	覆土
13	石器	磨・敲石	16.5	7.2	5.3	952.0	磨面2	—	完全実測	覆土

H7号竪穴建物出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法		量		内面	外形・調整	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)	重量等				
1	土師器	杯	15.0	7.4	3.6	—	ミガキ→黒色処理	ミガキ	完全実測	No2
2	土師器	杯	—	—	<3.6>	—	胸文状のミガキ	ケズリ→ミガキ	破片実測	P6
3	須恵器	杯	13.2	—	<3.7>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	I区
4	須恵器	杯	—	6.4	<1.0>	—	右回転系切	右回転系切	完全実測	I区
5	土師器	武蔵鉢	21.6	—	<23.3>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	No1
6	土師器	甕	—	[10.4]	<3.4>	—	ナデ	ケズリ→ミガキ	回転実測	I区
7	土師器	甕	—	—	<8.2>	—	ナデ	ケズリ	回転実測	I区、IV区、H9
8	須恵器	甕	—	—	<12.4>	—	ロクロナデ	ロクロナデ、叩目	回転実測	I区、ケン

H7 号竪穴建物出土遺物観察表(2)

No	器種	器形	法		重量等	内面		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	内面	成形・調整	外面		
9	須臾器	壺	—	6.0	<3.5>	—	ロクロナナ	—	—	同底支割	I区
10	須臾器	長頸壺(甕?)	—	<16.8>	<2.3>	—	ロクロナナ	—	—	同底支割	II区
11	須臾器	長頸壺	—	—	<4.9>	—	ロクロナナ	—	—	完全支割	II区
12	須臾器	壺	<12.0>	—	<2.9>	—	ロクロナナ	—	—	同底支割、拓本	ケン
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後加曽之内2、副代産	—	—	破片支割、拓本	II、III区ホリ
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後加曽之内2、口唇部刻み、内面口縁部に沈線による中央文	—	—	破片支割、拓本	II、III区ホリ
15	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後加曽内B、口唇部押捺、沈線文	—	—	破片支割、拓本	IV区
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後加曽内B、口唇部押捺、沈線文	—	—	破片支割、拓本	IV区
17	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後加曽内B、口唇部押捺、沈線文	—	—	破片支割、拓本	I区
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後加曽内B、口唇部押捺、沈線文	—	—	破片支割、拓本	I区
19	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後加曽内B、口唇部押捺、沈線文	—	—	破片支割、拓本	IV区
20	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後加曽内B、口唇部押捺、沈線文	—	—	破片支割、拓本	I区
21	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後加曽内B、口唇部押捺、沈線文	—	—	破片支割、拓本	IV区ホリ
22	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後加曽内B、口唇部押捺、沈線文	—	—	破片支割、拓本	II区ホリ
23	右器	砥石	<6.3>	<6.0>	<2.6>	<138.1>	底面1、裏だけ使用	—	—	完全支割	II区
24	右器	台石	<11.3>	<13.0>	<3.9>	<877.0>	上下穴損	—	—	完全支割	No6
25	右器	台石	<11.8>	<11.2>	<8.8>	<1778.0>	—	—	—	完全支割	No9
26	右器	台石	<14.2>	<15.1>	<6.0>	<1883.0>	全周穴損、使用面1	—	—	完全支割	No7
27	右器	台石	<14.5>	<10.3>	<2.0>	<532.0>	上部、左側穴損	—	—	完全支割	II区
28	右器	台石	<23.9>	<23.1>	<14.7>	<11300.0>	全周穴損	—	—	完全支割	No9
29	右製品	紡錘車	4.2	2.0	1.9	48.5	整形痕	—	—	完全支割	II区
30	右器	編物石	11.1	6.4	3.3	362.5	両側に加工痕	—	—	完全支割	No4
31	右器	編物石	11.8	6.2	4.0	443.0	—	—	—	完全支割	No3
32	右器	編物石	11.9	7.6	3.7	398.5	両側に使用痕	—	—	完全支割	ケン
33	右器	編物石	12.1	6.1	4.0	408.0	—	—	—	完全支割	ケン
34	右器	編物石	13.5	4.4	3.7	262.0	右側に加工痕	—	—	完全支割	IV区
35	右器	編物石	15.9	9.0	3.4	607.0	両側に使用痕	—	—	完全支割	II区
36	右器	磨石	5.1	3.2	1.7	41.4	正、裏面に磨り	—	—	完全支割	I区
37	右器	磨石	<5.1>	<4.4>	<1.2>	<35.9>	半分下穴損、全面磨り	—	—	完全支割	II区
38	右器	磨石	7.5	4.1	2.5	86.2	正面に磨り	—	—	完全支割	II区
39	右器	磨石・砥石	13.6	8.8	5.9	1280.0	正、裏、右側面に磨り	—	—	完全支割	II区
40	右器	磨石	13.7	8.4	4.9	826.0	磨面3	—	—	完全支割	No8

H9 号竪穴建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		重量等	内面		成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	内面	成形・調整	外面		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後明、沈線文	—	—	完全支割、拓本	II区
2	右器	編物石	12.7	6.3	4.7	<458.0>	—	—	—	完全支割	II区
3	右器	編物石	<15.2>	5.4	3.8	<410.0>	両側に加工痕	—	—	完全支割	II区
4	右器	編物石	16.9	7.9	4.9	624.0	—	—	—	完全支割	II区
5	右器	磨石	13.5	6.4	3.6	508.0	磨面4	—	—	完全支割	II区

H10 号第六遺物出土遺物整理表

No	器種	形状	法		重量等	成・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
1	土師器	环	—	<3.5>	—	ミガキ	ミガキ	完全実測	覆土
2	須恵器	蓋	13.4	<2.7>	—	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	覆土
3	土師器	鉢	13.0	<4.5>	—	ナデ	ケズリ	完全実測	覆土
4	縄文土器	深鉢	—	<12.0>	<2.2>	後別堀之内、網代瓦	—	完全実測	P1
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	後別堀之内、内面口唇部に1本の横位凹線	—	破片実測	拓本
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	後別堀之内2、北側にLR跡文、口唇部刻目	—	破片実測	拓本
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	後別堀之内2、破片1塊、顔状痕跡に8字貼付文、内面口唇部に同心円状凹線文	—	破片実測	拓本
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	後別堀之内2、顔状痕跡に8字貼付文、内面口唇部に1本の横位凹線	—	破片実測	拓本
9	縄文土器	土器片片割	3.2	3.1	1.0	破片に短編文の残跡	—	完全実測	拓本
10	石器	砥石	<9.6>	<5.7>	<3.3>	正基砥面、下端部、右側面欠損	—	完全実測	覆土
11	石器	編物石	11.0	5.1	3.9	281.0	—	完全実測	覆土
12	石器	磨石	8.0	5.3	3.3	186.1	正基砥面、左側面に磨打痕	完全実測	覆土
13	石器	磨石	<8.8>	<5.9>	<4.1>	<159.4>	正面磨面、全周欠損	完全実測	覆土
14	石器	石皿	<14.9>	<10.2>	<5.5>	<930.0>	正面使用面、全周欠損	完全実測	覆土

H11 号第六遺物出土遺物整理表(1)

No	器種	形状	法		重量等	成・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
1	土師器	环蓋	17.2	—	4.9	ヘラミガキ→黒色処理、復付着	つまみ貼付、回転ヘラケズリ	完全実測	W、カマド
2	須恵器	环	13.4	6.0	3.9	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	W
3	須恵器	环	13.4	6.6	3.8	ロクロナデ	回転糸切	完全実測	ケン
4	須恵器	环	13.4	7.4	3.5	ロクロナデ	糸切→ヘラケズリ	完全実測	カマド
5	須恵器	环	13.4	8.0	4.2	ロクロナデ	回転糸切	完全実測	カマド
6	須恵器	环	13.6	6.6	4.4	ロクロナデ	右回転糸切	完全実測	カマド
7	須恵器	环	13.6	6.8	4.1	—	右回転糸切	完全実測	W、カマド
8	須恵器	环	14.7	7.2	4.0	火摩	右回転糸切	完全実測	E、カマド
9	須恵器	有台环	—	7.1	1.5	ロクロナデ	右回転糸切、付高台	完全実測	W、カマド、ホリ
10	須恵器	环蓋	14.9	—	4.1	ロクロナデ	つまみ貼付、回転ヘラケズリ	完全実測	W、カマド
11	須恵器	环蓋	17.8	—	<6.2>	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	W、カマド
12	土師器	武蓋	—	4.8	<10.0>	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	E
13	土師器	武蓋	—	—	—	後別堀内側、区切り文、斜行条線、網代瓦	—	完全実測	E、カマド
14	縄文土器	浅鉢	12.3	5.1	9.0	後別堀内側2、内面口唇部に1本の凹線、無文、網代瓦	—	完全実測	拓本
15	縄文土器	浅鉢	14.4	5.5	5.5	後別堀内側2、内面口唇部に1本の凹線、外基に付文	—	完全実測	拓本
16	縄文土器	浅鉢	—	7.0	<0.9>	後別堀内側2、内面口唇部に1本の凹線、外基に付文	—	完全実測	拓本
17	縄文土器	浅鉢	—	—	—	後別堀内側2、網代瓦	—	破片実測	拓本
18	縄文土器	浅鉢	—	6.0	5.3	後別堀内側2、網代瓦	—	破片実測	拓本
19	縄文土器	浅鉢	—	—	—	後別堀之内2、内面口唇部に同心円状凹線、外基多数の平行凹線部に1本の横文	—	破片実測	拓本
20	縄文土器	浅鉢	—	—	—	後別堀之内2、内面口唇部に1本の凹線、外基に付文	—	破片実測	拓本
21	縄文土器	浅鉢	—	—	—	後別堀之内2、内面口唇部に1本の凹線、外基に付文	—	破片実測	拓本
22	縄文土器	浅鉢	—	—	—	後別堀之内2、内面口唇部に1本の凹線、外基多数の平行凹線部に1本の横文	—	破片実測	拓本
23	縄文土器	浅鉢	—	—	—	後別堀之内2、内面口唇部に1本の凹線、外基多数の平行凹線部に1本の横文	—	破片実測	拓本
24	縄文土器	浅鉢	—	—	—	後別堀之内2、内面口唇部に1本の凹線、外基多数の平行凹線部に1本の横文	—	破片実測	拓本
25	縄文土器	浅鉢	—	—	—	後別堀之内2、2本の凹線に付文を呈し、平行凹線部に1本の凹線、内面口唇部に1本の凹線	—	破片実測	拓本

H11 第壱穴遺跡出土遺物種別表(2)

No	器種	器形	法		重量等	成 形・調 整		備 考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	内 面		
26	甌文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片実測、拓本	ケン
27	甌文土器	深鉢	—	—	—	—	後期層之内2、平行状線	破片実測、拓本	E
28	甌文土器	深鉢	—	—	—	—	後期層之内2、平行状線	破片実測、拓本	ケン
29	甌文土器	注口土器	—	—	—	—	後期層之内2、細状線	破片実測、拓本	ケン
30	甌文土器	ミニ・カップ土器	3.0	—	<1.8>	—	3.0程度の波状口縁、内面に1本の花線	完全実測	ケン
31	石器	磨石	<6.7>	<5.6>	<3.0>	<59.5>	使用面1、全周欠損	完全実測	W
32	石器	磨石	<12.8>	<9.4>	<5.0>	<763.0>	使用面1、全周欠損	完全実測	W
33	石器	磨石	<13.6>	<7.4>	<5.5>	<514.0>	使用面1、全周欠損	完全実測	ケン
34	石器	磨石	<14.3>	<7.2>	<1.7>	<170.9>	使用面1、全周欠損	完全実測	ケン
35	石製品	石製模造品	4.5	2.1	0.75	8.2	緑色片岩	完全実測	ケン
36	石器	磨石	4.7	3.0	1.3	26.3	磨面全体	完全実測	ケン
37	石器	磨石	8.2	7.7	2.2	102.6	磨面1	完全実測	W
38	石器	磨石・砥石	<10.3>	7.1	3.8	<485.0>	磨全面、截2ヶ所、下部欠損	完全実測	ケン
39	石器	磨石・砥石	11.8	7.3	3.3	438.5	磨全面、截行截2ヶ所、凹4ヶ所	完全実測	W
40	石器	磨石・凹石	13.1	5.7	3.8	430.0	凹2ヶ所	完全実測	ケン

H12 第穴遺跡出土遺物種別表(1)

No	器種	器形	法		重量等	成 形・調 整		備 考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	内 面		
1	土師器	環	12.6	—	4.3	—	暗文	完全実測	凹区
2	土師器	環	<12.8>	—	<3.8>	—	暗文状ヘラミガキ	完全実測	凹区
3	土師器	環	<12.8>	—	6.2	—	暗文状ヘラミガキ、黒色処理	完全実測	I区
4	土師器	環	13.2	—	4.7	—	暗文状ヘラミガキ	完全実測	No8、凹区、IV区ホリ
5	土師器	環	<13.6>	—	<4.3>	—	暗文状ヘラミガキ	完全実測	I区
6	土師器	環	<13.6>	—	<4.5>	—	暗文状ヘラミガキ	完全実測	I区
7	土師器	環	<13.6>	—	5.5	—	暗文状ヘラミガキ、黒色処理	完全実測	凹区、カマド
8	土師器	環	<15.0>	—	4.0	—	暗文状ヘラミガキ	完全実測	凹区
9	土師器	環	<15.6>	—	<3.8>	—	暗文状ヘラミガキ	完全実測	凹区
10	土師器	環	—	<6.2>	<3.7>	—	環部ヘラミガキ、黒色処理、脚部ナデ	完全実測	凹区
11	須恵器	環蓋	<12.4>	—	4.8	—	口クロナデ	完全実測	IV区、調製、NSTP要目節
12	須恵器	環蓋	<13.8>	—	<4.1>	—	口クロナデ	完全実測	I、II、IV区
13	須恵器	高环	<17.2>	—	<6.3>	—	口クロナデ	完全実測	IV区ホリ
14	土師器	甕	<15.0>	<6.0>	18.6	—	ナデ	完全実測	凹区、カマド
15	土師器	甕	<17.6>	—	<8.7>	—	ナデ	完全実測	凹区
16	土師器	甕	<19.2>	—	<24.9>	—	ナデ	完全実測	No7、I区
17	土師器	甕	<25.6>	—	<23.5>	—	ナデ	完全実測	III、IV区
18	土師器	甕	—	6.5	5.8	—	ナデ	完全実測	凹区
19	土師器	甕	—	<8.8>	<8.2>	—	ナデ	完全実測	覆土
20	土師器	甕	—	<9.2>	<6.2>	—	ナデ	完全実測	凹区
21	土師器	甕	10.0	—	9.4	—	ナデ→ヘラミガキ	完全実測	No5
22	土師器	甕	—	<8.8>	<12.3>	—	ナデ→ヘラミガキ	完全実測	カマド
23	甌文土器	浅鉢	—	—	—	—	後期加曾利B1、8字状沈線文	破片実測、拓本	I区ホリ
24	甌文土器	深鉢	—	—	—	—	後期層之内2、粗製深鉢	破片実測、拓本	凹区

H12 野穴遺物出土遺物整理表(2)

No	器種	器形	口径(底)	底径(脚)	高さ(厚)	重量等	内面	外面	備考	出土層位
25	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後明庵之内2、破面在破文間にRI線文、内面多段平行凹線	—	破片表割、拓本	Ⅲ区
26	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後明庵之内2、内面に花綱による杵状文	—	破片表割、拓本	Ⅳ区
27	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後明庵之内2、波状口縁、杵状文	—	破片表割、拓本	Ⅳ区
28	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後明庵之内2、波状口縁、破頂部に突起	—	破片表割、拓本	Ⅲ区
29	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後明庵之内2、鎖状隆帯、杵状文、内面口唇部に3本の凹線	—	破片表割、拓本	Ⅲ区
30	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後明庵之内2、無文、内面に2本の凹線	—	破片表割、拓本	Ⅳ区
31	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後明庵之内2、2本の平行する鎖状隆帯、内面口唇部に凹線	—	破片表割、拓本	Ⅰ区
32	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後明庵之内2、無文、内面に花綱による鎖状文	—	破片表割、拓本	Ⅲ区
33	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後明庵之内2、鎖状隆帯	—	破片表割、拓本	Ⅲ区
34	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後明庵之内2、石神型	—	破片表割、拓本	Ⅲ区
35	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後明庵之内2、石神型	—	破片表割、拓本	Ⅳ区
36	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後明庵之内2、花綱による杵状文	—	破片表割、拓本	Ⅳ区
37	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後明庵之内2、幾何学文、LR線文	—	破片表割、拓本	Ⅲ区
38	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後明庵之内2、杵状文、鎖状隆帯	—	破片表割、拓本	Ⅲ区
39	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後明庵之内2、石神型	—	破片表割、拓本	Ⅲ区
40	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後明庵之内2、石神型	—	破片表割、拓本	Ⅲ区
41	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後明庵之内2、石神型	—	破片表割、拓本	Ⅰ区
42	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後明庵之内2、石神型	—	破片表割、拓本	Ⅳ区
43	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後明庵之内2、石神型	—	破片表割、拓本	Ⅳ区
44	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後明庵之内2、鎖状隆帯	—	破片表割、拓本	Ⅲ区
45	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後明庵之内2、鎖状隆帯	—	破片表割、拓本	Ⅲ区
46	縄文土器	注口土器	—	—	—	—	後明庵之内2、鎖状隆帯	—	破片表割、拓本	Ⅲ区
47	縄文土器	注口土器	—	—	—	—	後明庵之内2、鎖状隆帯	—	破片表割、拓本	Ⅲ区
48	縄文土器	注口土器	—	—	—	—	後明庵之内2、鎖状隆帯	—	破片表割、拓本	Ⅲ区
49	縄文土器	注口土器	—	—	—	—	後明庵之内2、石神型	—	破片表割、拓本	Ⅲ区
50	縄文土器	注口土器	—	—	—	—	後明庵之内2、石神型	—	破片表割、拓本	Ⅲ区
51	縄文土器	ミナモア土器	—	—	—	—	後明庵之内2	—	同底表割、拓本	Ⅰ区
52	弥生土器	甕	—	—	—	—	三ガキ→赤彩	—	同底表割、拓本	Ⅲ区
53	弥生土器	甕	—	—	—	—	三ガキ	—	破片表割、拓本	Ⅲ区
54	弥生土器	甕	—	—	—	—	三ガキ	—	破片表割、拓本	Ⅲ区
55	弥生土器	甕	—	—	—	—	三ガキ	—	破片表割、拓本	Ⅲ区
56	縄文土器	土師片皿	—	—	—	—	三ガキ	—	同底表割、拓本	Ⅲ区
57	縄文土器	土師片皿	3.2	3.2	0.8	—	後明、無文	—	破片表割、拓本	Ⅲ区
58	縄文土器	土師片皿	3.5	4.0	0.8	—	後明、副代底片再利用	—	破片表割、拓本	Ⅲ区
59	縄文土器	土師片皿	3.7	4.0	0.7	—	後明、中心にφ7mmの円孔、RI線文	—	破片表割、拓本	Ⅲ区
60	縄文土器	土師片皿	3.9	4.4	1.0	—	後明、無文	—	破片表割、拓本	Ⅲ区
61	縄文土器	土師片皿	5.7	5.5	1.1	—	後明、副代底片再利用	—	破片表割、拓本	Ⅲ区
62	石器	砥石	11.2	4.4	2.8	106.0	砥石数5	—	完全表割	No4
63	石器	台石	7.5	7.0	3.1	228.0	全周欠損、正面使用面	—	完全表割	Ⅳ区
64	石器	台石	7.8	10.0	1.8	179.0	全周欠損、正面使用面	—	完全表割	Ⅳ区
65	石器	台石	8.5	4.8	2.9	177.0	全周欠損、正面使用面	—	完全表割	Ⅳ区
66	石器	台石	14.0	8.0	5.6	696.0	全周欠損、正裏使用面	—	完全表割	Ⅳ区
67	石器	台石	24.3	15.8	3.7	2200.0	全周欠損、正裏使用面	—	完全表割	Ⅳ区



H12 竪穴建物出土遺物観察表(3)

No	器種	器形	法		重量等	内面		外面	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		高さ(厚)	重量等			
68	石器	台石	<26.0>	<16.3>	<3.8>	<1626.0>	全周欠損、正面使用面		完全欠損	Ⅲ区
69	石器	台石	<28.9>	<15.6>	<9.3>	<680.0>	全周欠損、正裏使用面		完全欠損	Ⅰ区
70	石器	石製板造品	2.8	1.1	0.5	1.48	原材		完全欠損	Ⅰ区
71	石製品	石製板造品	4.5	1.1	0.5	3.41	原材		完全欠損	No1
72	石製品	有孔凹盤	2.7	3.4	0.3	5.44	2孔、φ 0.4、表面より穿孔		完全欠損	Ⅳ区
73	石製品	石製凹盤	4.2	4.2	0.5	10.86			完全欠損	Ⅱ区
74	石器	打斧	5.75	5.9	1.8	58.0	切部欠損		完全欠損	Ⅱ区
75	石器	石鐮	1.5	1.7	0.3	0.45			完全欠損	Ⅱ区
76	石器	石鐮	1.7	1.3	0.2	0.28			完全欠損	Ⅱ区
77	石器	白玉	1.1	1.1	0.5	0.91			完全欠損	Ⅰ区
78	石器	編物石	<9.7>	<6.4>	<2.6>	<211.0>	下部欠損		完全欠損	P8
79	石器	編物石	11.4	6.2	3.5	338.0			完全欠損	No10
80	石器	編物石	11.5	5.5	3.7	359.0			完全欠損	No3
81	石器	編物石	11.9	5.1	3.5	305.0			完全欠損	Ⅲ区
82	石器	編物石	14.6	6.6	4.2	587.0			完全欠損	No11
83	石器	編物石	15.3	7.0	5.7	851.0			完全欠損	Ⅱ区
84	石器	磨石	<6.0>	<6.3>	<1.7>	<77.0>	全周欠損、正面磨面		完全欠損	Ⅲ区
85	石器	磨石	<6.6>	<7.4>	<2.0>	<94.0>	下部欠損、左側磨面		完全欠損	Ⅳ区
86	石器	磨石	9.6	8.1	4.9	540.0	正裏磨面		完全欠損	ケン
87	石器	磨石	<11.0>	<6.7>	<2.5>	<259.0>	左側部欠損、正裏磨面		完全欠損	Ⅲ区
88	石器	磨石	<12.2>	<8.0>	<5.8>	<934.0>	下部欠損、正面磨面		完全欠損	No12
89	石器	磨・敲石	15.1	6.4	4.4	541.0	正裏上部敲打痕、正裏磨面		完全欠損	No9
90	木器	碗?	—	—	—	<1.3>	酸化した底台部分		破片欠損	Ⅰ区

F1号掘立柱建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		重量等	内面		外面	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		高さ(厚)	重量等			
1	縄文土器	注口土器	<8.0>	<6.6>	<4.1>	—	後明圃之内2、沈線文		凹版欠損	P1
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後明圃之内2、横位平行沈線間にLR 縄文		破片欠損、拓本	P1
3	石器	台石	<11.9>	<4.0>	<5.4>	<257.5>			完全欠損	P1
4	石器	碗?石	<7.8>	<10.1>	<2.6>	<247.0>	上部欠損		完全欠損	P1
5	石器	石皿	<13.3>	<11.7>	<3.0>	<392.5>	全周欠損、磨石		完全欠損	P1

F2号掘立柱建物出土遺物観察表

No	器種	器形	法		重量等	内面		外面	備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		高さ(厚)	重量等			
1	土師器	杯	—	—	—	—	ヘラミカガネ→黒色処理		破片欠損、拓本	P2
2	縄文土器	深鉢	<10.6>	<1.9>	<1.9>	—	後明圃之内、割代痕		凹版欠損、拓本	P2
3	縄文土器	深鉢	<12.0>	<2.7>	<2.7>	—	後明圃之内、木葉痕		凹版欠損、拓本	P1
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後明圃之内2、沈線文、銅状隆帯		破片欠損、拓本	P2
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後明圃之内2、沈線文		破片欠損、拓本	P2
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後明圃之内2、2本の横位銅状隆帯、正三角文、内面凹間に1本の凹線		破片欠損、拓本	P4
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後明圃之内2、沈線文、凹 補文		破片欠損、拓本	P5
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後明圃之内2、幾何学文、LR 縄文		破片欠損、拓本	P5
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後明圃之内2、沈線文		破片欠損、拓本	P5

F4号竪立柱建物出土遺物観察表

No	器種	形状	法		重量等	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
1	石器	砥石	<8.6>	<7.9>	<2.7>	<241.5>	上部欠損、砥面4、正面に条痕	完全欠損	P1
2	石器	磨石	11.6	6.0	3.8	380.5	磨面3	完全欠損	P1

F5号竪立柱建物出土遺物観察表

No	器種	形状	法		重量等	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
1	縄文土器	深鉢	<5.1>	<4.6>	<2.9>	—	後期加賀利B、口唇部に突起、沈線文	破片欠損	P2
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期加賀利B、破片口縁、口唇部に押痕、内面口縁部に3本の凹線	破片欠損、拓本	P3
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期加賀利2、頸状隆帯	破片欠損、拓本	P4
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期加賀利B?、唇状浮線文?	破片欠損、拓本	P4

D2号土坑出土遺物観察表

No	器種	形状	法		重量等	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
1	縄文土器	深鉢	(22.2)	—	<13.7>	—	後期加賀之内2、頸状隆帯、縄文LR、沈線	回転欠損	覆土
2	縄文土器	深鉢	—	(8.8)	<2.4>	—	副代遺	回転欠損、拓本	覆土
3	縄文土器	深鉢	—	(10.2)	<13.0>	—	後期加賀之内2、口唇部押痕、頸状隆帯、縄文LR、沈線	破片欠損、拓本	覆土
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期加賀之内2、頸状隆帯に8字組付文、縄文RL、沈線	破片欠損、拓本	覆土
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期加賀之内2、3本の平行縦状隆帯を8字組付文で衝合、縄文RL、沈線、内面口唇部に1本の凹線	破片欠損、拓本	覆土
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期加賀之内2、口唇部凹片口縁に内面、内面口縁部に2本の凹線	破片欠損、拓本	覆土
7	縄文土器	鉢	—	—	—	—	後期加賀之内2、沈線	破片欠損、拓本	覆土
8	縄文土器	鉢	—	—	—	—	後期加賀之内2、沈線による幾何学文	破片欠損、拓本	覆土
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後期加賀之内2、沈線	破片欠損、拓本	覆土
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	副代遺	完全欠損、拓本	覆土
11	縄文土器	土器片/片断	6.0	6.0	0.9	—	—	完全欠損	覆土
12	石器	磨石	<1.8>	<3.4>	<1.2>	<14.9>	全面磨り、全周欠損	完全欠損	覆土
13	石器	磨・砥石	13.8	8.9	5.1	976.0	正面磨り、正裏、上下、左右側面に敲打痕	完全欠損	覆土

D3号土坑出土遺物観察表

No	器種	形状	法		重量等	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
1	石器	砥石	11.4	6.9	5.2	658.0	砥面2、正面に帯痕	完全欠損	覆土

D5号土坑出土遺物観察表

No	器種	形状	法		重量等	成形・調整		備考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		内面	外面		
1	縄文土器	深鉢	—	(10.0)	<3.7>	—	副代遺	回転欠損、拓本	覆土
2	縄文土器	深鉢	—	<4.0>	<3.3>	<2.8>	後期加賀之内2、内面口唇部の隆帯が突起に連結、沈線、RL 縄文	破片欠損、拓本	カクラン、D5 前
3	石器	砥石	2.0	1.1	0.4	<49.4>	砥面2、上部、右側欠損	完全欠損	覆土
4	石器	石磨	<5.4>	<6.2>	<2.3>	<89.0>	全周欠損	完全欠損	覆土
5	石器	磨石	<5.4>	<6.2>	<2.3>	<89.0>	全周欠損	完全欠損	覆土

D7号土坑出土遺物観察表

No	器種	器形	法		量	成 形・調 整		備 考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	重量等		
1	縄文土器	浅鉢	—	—	<12.7>	—	後朝繩之内2、平行沈線による帯状文	同配実測	覆土、H11ケン
2	縄文土器	深鉢	—	(10.4)	(7.6)	—	後朝繩之内2、内面、口唇部に條帯と凹線で連結される同心円文凹形突起	同配実測、拓本	覆土
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後朝繩之内2、口唇部内面に1本の凹線	破片実測、拓本	覆土
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後朝繩之内2、頸状條帯、平行沈線間にRL編文	破片実測、拓本	覆土
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後朝繩之内2、口唇部逆片口状に付目、内面口唇部に2本の條帯及び凹線	破片実測、拓本	覆土
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後朝繩之内2、頸状條帯、沈線、RL編文、内面口唇部に2本の條帯と凹線	破片実測、拓本	覆土
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後朝繩之内2、頸状條帯に8字出付文、内面口唇部に1本の凹線	破片実測、拓本	覆土
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後朝繩之内2、平行沈線間にRL編文の帯で覆付文字	破片実測、拓本	覆土
9	縄文土器	破石	(11.9)	(9.8)	(2.7)	(532.0)	全面欠損、底面1、底面に擦痕	完全実測	覆土
11	石器	台石	(7.4)	(3.9)	(4.9)	(115.3)	下、左右欠損、使用前1、使用後に擦痕	完全実測	覆土
12	石器	台石	(14.5)	(17.6)	(8.8)	(286.0)	ほぼ欠損	完全実測	No2
13	石器	加工面のある割片	(2.65)	(1.4)	(0.45)	—	上部欠損	完全実測	覆土
14	石器	石皿	(18.9)	(23.8)	(8.4)	(3520.0)	ほぼ欠損	完全実測	No1

ピット出土遺物観察表

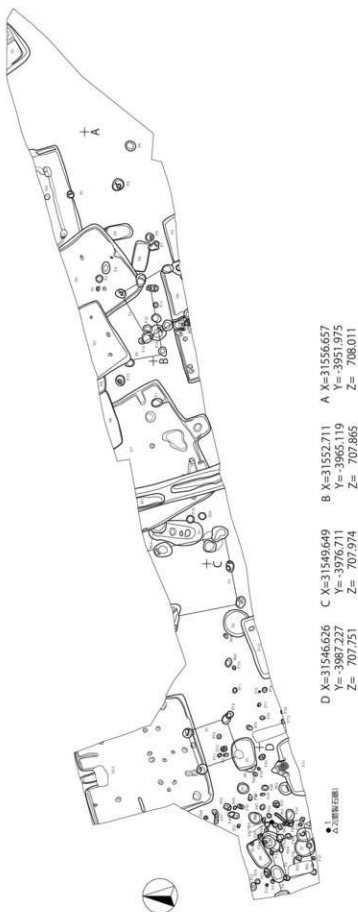
No	器種	器形	法		量	成 形・調 整		備 考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	重量等		
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後朝繩之内、所謂粗刺窪鉢	破片実測、拓本	P32 覆土
2	縄文土器	鉢	—	—	—	—	後朝繩之内、沈線による細條状條帯	破片実測、拓本	P32 覆土
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後朝繩之内2、波状口縁、口唇部内面に1本の凹線	破片実測、拓本	P41 覆土
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後朝繩之内2、帯状文、RL編文	破片実測、拓本	P41 覆土

遺構外出土遺物観察表(1)

No	器種	器形	法		量	成 形・調 整		備 考	出土層位
			口径(長)	底径(短)		器高(厚)	重量等		
1	縄文土器	浅鉢	15.0	6.4	9.7	—	後朝加曾利B1、区切り文、編文LR、口唇部にも1本の沈線による区切り文、編文	完全実測、拓本	No1
2	縄文土器	台杯鉢?	—	(12.6)	(2.9)	—	後朝、編文、沈線	同配実測、拓本	西側ケン
3	縄文土器	浅鉢	—	—	—	—	後朝、多段の平行沈線	破片実測、拓本	表層
4	縄文土器	深鉢	—	(7.0)	(2.6)	—	後朝繩之内2、編文	同配実測、拓本	試掘
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後朝繩之内2、2段の頸状條帯、覆付文字、RL編文、内面口唇部に1本の凹線	破片実測、拓本	西側ケン
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後朝繩之内2、RL編文、口唇部内面に1本の凹線	破片実測、拓本	ケン
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後朝繩之内2、口唇部刻目、内面に多段の平行凹線	破片実測、拓本	ケン
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後朝繩之内2、所謂粗刺窪鉢、外面ナズ草頭莖	破片実測、拓本	ケン
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後朝繩之内2、波状口縁、内面口唇部に2本の平行凹線	破片実測、拓本	試掘
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後朝繩之内2、条線による曲線文	破片実測、拓本	試掘
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後朝繩之内2、6と同一層位か?、RL編文、矢作型等か?	破片実測、拓本	試掘
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後朝繩之内2、溝巻文、RL編文	破片実測、拓本	試掘
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後朝繩之内2、沈線	破片実測、拓本	試掘
14	縄文土器	鉢	—	—	—	—	後朝繩による帯状凹線内にRL編文	破片実測、拓本	試掘
15	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	後朝繩之内2、沈線による横帯にRL編文	破片実測、拓本	試掘
16	縄文土器	注口土器	—	—	—	—	後朝、石神型等の注口土器、編文	破片実測、拓本	試掘
17	縄文土器	注口土器	—	—	—	—	16と同一か	破片実測、拓本	試掘

遺構外出土遺物観察表 (2)

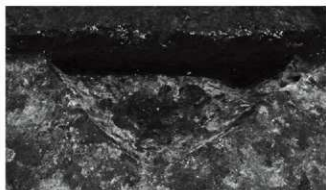
No	器種	器形	法		重量等	内面		外形・調整		備考	出土層位
			口径(径)	底径(短)		器高(厚)	内面	外面			
18	縄文土器	ミニチュア土器	6.0	6.0	<3.4>	—	後胎、無文	—	—	—	試掘
19	弥生土器	甕	30.0	—	<9.9>	—	ハラミガキ→赤彩	ハラミガキ→赤彩	—	—	試掘
20	石器	砥石	8.3	5.6	2.2	180.4	砥面1	—	—	—	試掘
21	石器	磨製石斧	<3.75>	<4.3>	<1.9>	<43.8>	下部欠損、よく磨かれている	—	—	—	No2
22	副製品	?	<11.5>	<1.6>	<0.1>	<2.31>	上部欠損	—	—	—	ケン



第42図 西近津X VII全体図

● 土器(石器)  
 A X=31546.626 Y=-3987.227 Z= 707.751  
 B X=31552.711 Y=-3965.119 Z= 707.865  
 C X=31549.649 Y=-3976.711 Z= 707.974  
 D X=31556.657 Y=-3951.975 Z= 708.011

0 5m



H 1号竪穴建物



H 2号竪穴建物



H 3号竪穴建物



H 5号竪穴建物



H 4号竪穴建物



H 6号竪穴建物



H 6号竪穴建物カマド



H 8号竪穴建物



H 7号竪穴建物



H 9号竪穴建物



H 10号竪穴建物



H 11号竪穴建物



H 11号竪穴建物カマド



H12号竪穴建物



H12号竪穴建物カマド



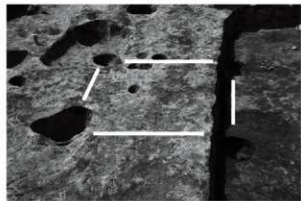
F 1号掘立柱建物



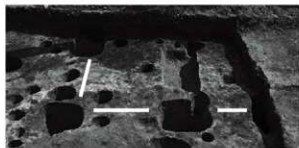
F 2号掘立柱建物



F 3号掘立柱建物



F 5号掘立柱建物



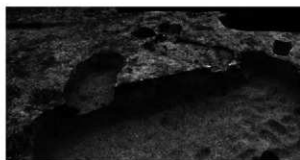
F 4号掘立柱建物



D 1号土坑



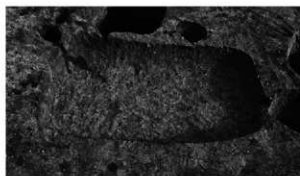
D 2号土坑



D 3·4号土坑



D 5号土坑



D 6号土坑

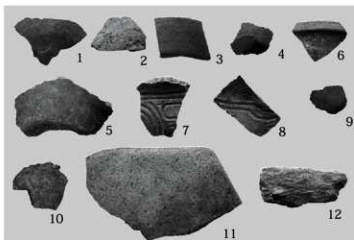


D 7号土坑

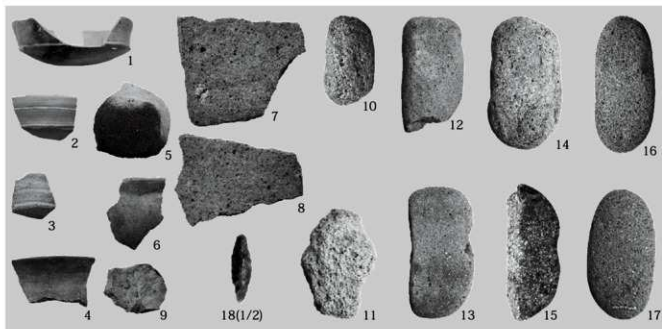




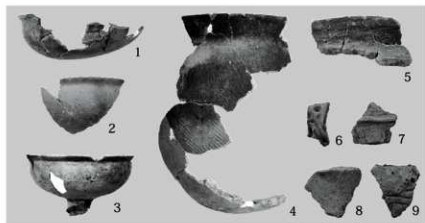
M1号溝址



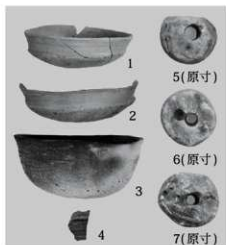
H2号竪穴建物出土遺物



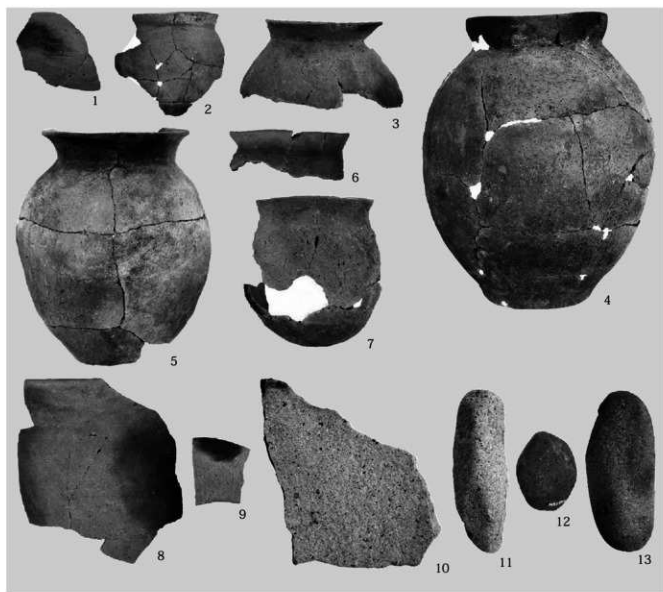
H3号竪穴建物出土遺物



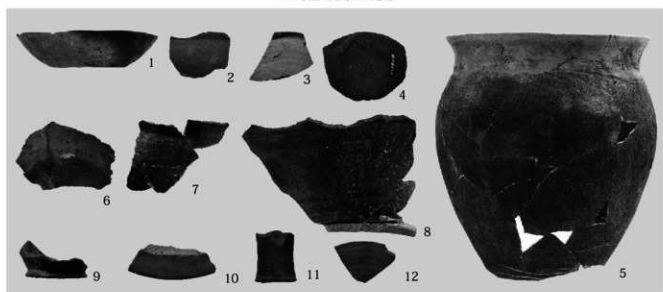
H4号竪穴建物出土遺物



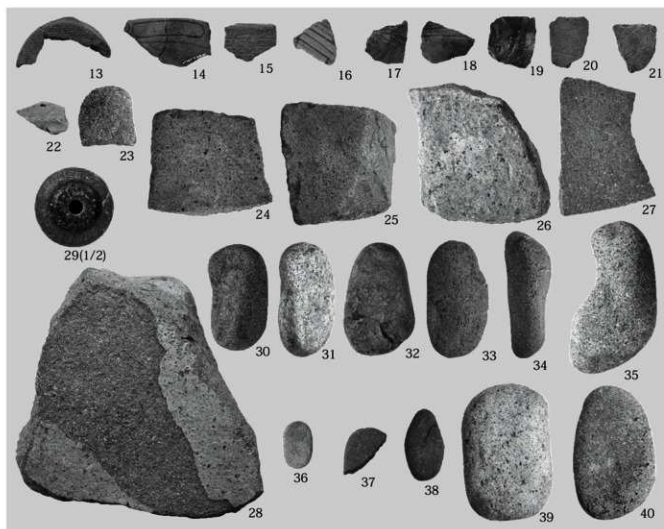
H5号竪穴建物出土遺物



H6号整穴建物出土遺物



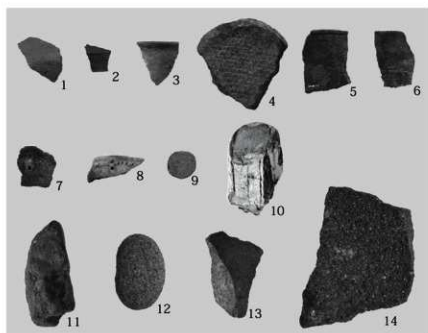
H7号整穴建物出土遺物(1)



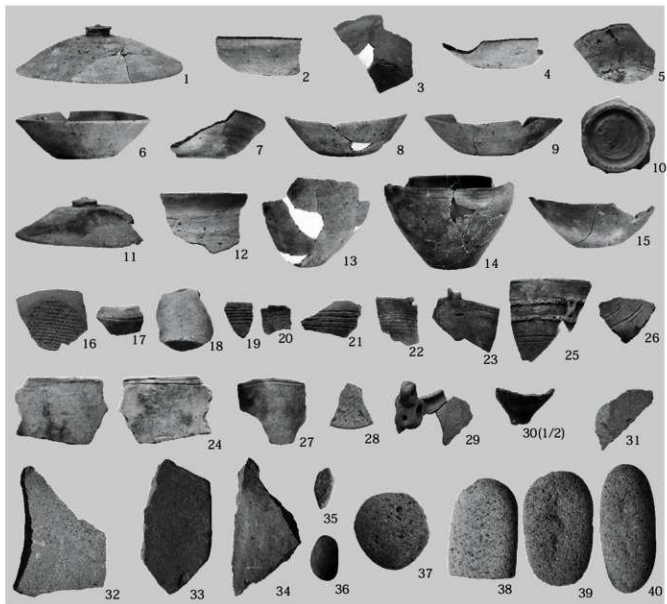
H7号竖穴建物出土遺物(2)



H9号竖穴建物出土遺物



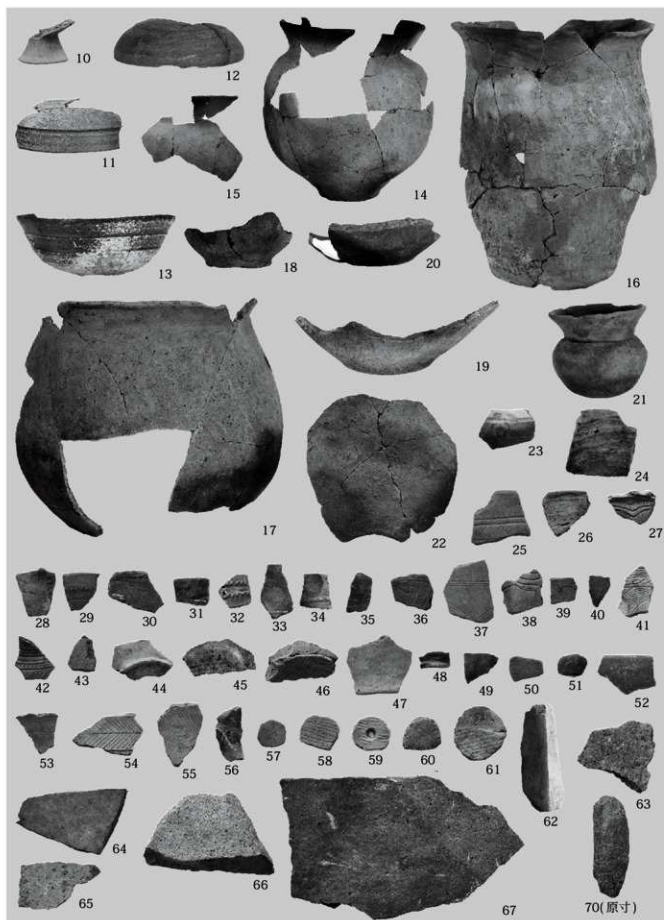
H10号竖穴建物出土遺物



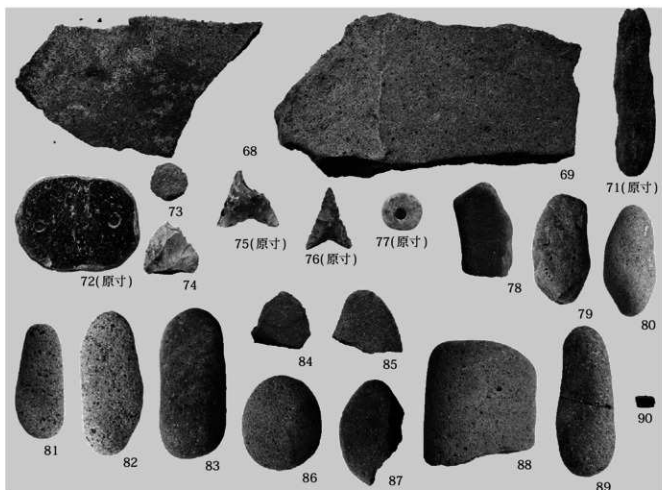
H11号竪穴建物出土遺物



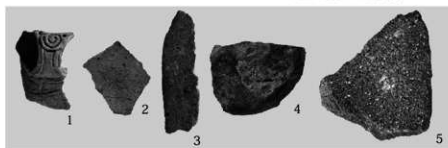
H12号竪穴建物出土遺物(1)



H12号竖穴建物出土遺物(2)



H12号竖穴建物出土遺物(2)



F1号竖立柱建物出土遺物



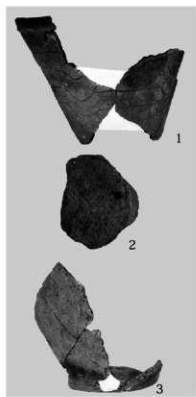
F2号竖立柱建物出土遺物



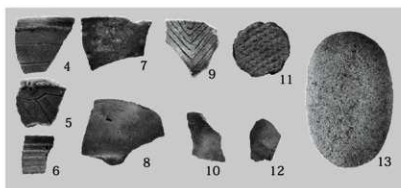
F4号竖立柱建物出土遺物



F5号竖立柱建物出土遺物



D2号土坑出土遺物(1)

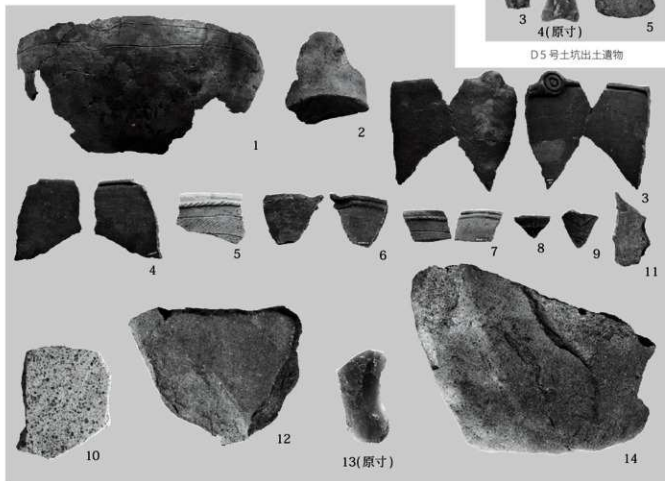


D2号土坑出土遺物(2)

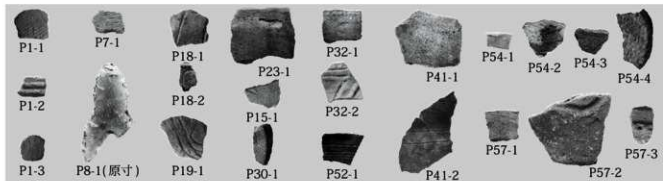


D3号土坑出土遺物

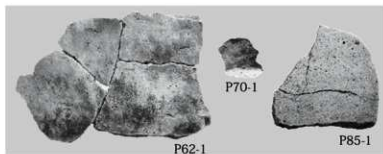
D5号土坑出土遺物



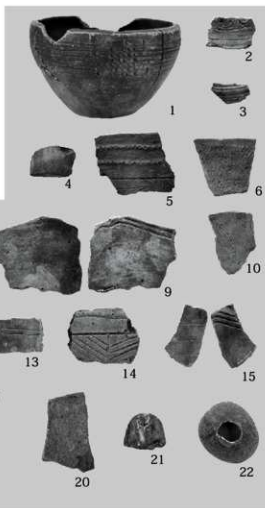
D7号土坑出土遺物



ピット出土遺物(1)



ピット出土遺物(2)



遺構外出土遺物



ふりがな	にしちかついせきぐん にしちかついせき 17							
書名	西近津遺跡群 西近津遺跡XVII							
副書名								
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 299 集							
編著者名	小林眞寿							
編集機関	佐久市教育委員会 文化振興課							
所在地	長野県佐久市中込 2913 ㊟ 0267-63-5321 FAX0267-63-5322							
発行年月日	令和 5 年 (2023) 2 月							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
にしちかついせき 17 <small>にしちかついせき 17</small>		20217	29	36° 17'03.81"	138° 27'20.55"	20210817 ～ 20210915	310.4㎡	宅地造成
西近津遺跡XVII	佐久市民土呂 1086-1							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
西近津遺跡XVII	集落址	縄文・弥生・古墳・平安	竪穴建物 -12 棟 掘立柱建物 -5 棟 土坑 -7 基 溝 -1 条 ピット -81 基	縄文土器 弥生土器 土師器 石器・石製品	古墳時代後期集落の検出。 縄文時代後期堀之内 2 式期の土坑の検出。			
<b>要約</b>	田切台地上に営まれた縄文時代後期～中世に及ぶ集落遺跡。							

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第299集

## 西近津遺跡群 西近津遺跡XVII

2023年2月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込3056

社会教育部 文化振興課 文化財事務所

〒385-0051 長野県佐久市中込2913

㊟0267-63-5321

印刷所

キクハラインク株式会社

